

令和8年5月26日			
第1回総合計画審議会			
別	冊	No.	2

令和8年 上越市 市民の声アンケート 報告書

令和8年5月
上越市

目次

1 調査の全体概要	2
1-1 調査目的	3
1-2 調査方法	3
1-3 回収結果	3
1-4 利用にあたって	4
2 調査結果	10
2-1 【問1】生活実態・実感	11
2-2 【問2(1)～(64)】市の取組に対する満足度・重要度	17
2-3 【問2(65)】地域自治区制度に対する認知度	34
2-4 【問2(66)】地域協議会に対する認知度	35
2-5 【問3(1)】暮らしやすさ	36
2-6 【問3(2)】上越市に住み続ける意向	38
2-7 【問3(3)①】住みたい地域	40
2-8 【問3(3)②】住みたい地域を選んだ理由	41
2-9 【問4】地域活動や市民活動への参加	42
2-10【問5】今後の市政やまちづくりについての意見	44
2-11 デジタル化に関する調査について	55
3 集計表	58
3-1 回答者属性	59
3-2 クロス集計表(性別・年齢・家族構成・地域区分)	62
4 附属資料(アンケート調査票)	94

1 調査の全体概要

1-1 調査目的

市民生活の実態や実感、市の各政策分野の取組に対する満足度・重要度を定量的に把握するとともに、平成 30 年及び令和 4 年に実施した市民の声アンケートの調査結果との比較・分析などを行い、第 7 次総合計画後期基本計画の策定及び各施策・事業の推進につなげるもの。

1-2 調査方法

(1) 調査地域

上越市全域

(2) 調査対象

上越市内に在住する満 18 歳以上の男女 3,000 人

(3) 抽出方法

令和 7 年 12 月 1 日現在の住民基本台帳から 28 の地域自治区ごとに年齢階層別の人口割合に応じて無作為に抽出

(4) 調査方法

郵送による配布・郵送またはウェブサイトによる回収

(5) 調査期間

令和 8 年 1 月 7 日～21 日

1-3 回収結果

(1) 発送数

3,000

(2) 回収数

1,524

(3) 有効回答率

50.8%

1-4 利用にあたって

(1) 調査結果の数値

- ・調査結果の数値を割合「%」で表示した場合の母数を図表では「n」と表示している。
「n」の表示がない場合の母数は、本調査の有効回答数 1,524 である。
- ・「%」の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、少数点以下第 1 位までを表示している。したがって、比率の合計は必ずしも 100%ではない場合 (99.9%、100.1%など)がある。
- ・図表の一部において、「%」の値の小さい項目は、値の表示を省略している。
- ・本調査は、全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査であるため、調査の結果は必ずしも母集団の値とは一致せず、多少の差（標本誤差）が生じる。本調査の標本誤差は、下表のとおり設問ごとの回答の比率に応じて計算される。

回答の比率	標本誤差		
	今回 R8 調査	前回 R4 調査 (参考)	前々回 H30 調査 (参考)
10%または 90%	±1.5%	±1.2%	±1.3%
20%または 80%	±2.0%	±1.6%	±1.7%
30%または 70%	±2.3%	±1.9%	±2.0%
40%または 60%	±2.4%	±2.0%	±2.1%
50%	±2.5%	±2.0%	±2.1%

【標本誤差の計算方法】

計算式

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差 N = 母集団数※ (152,173)

n = 比率算出の基数 (1,524) P = 回答比率

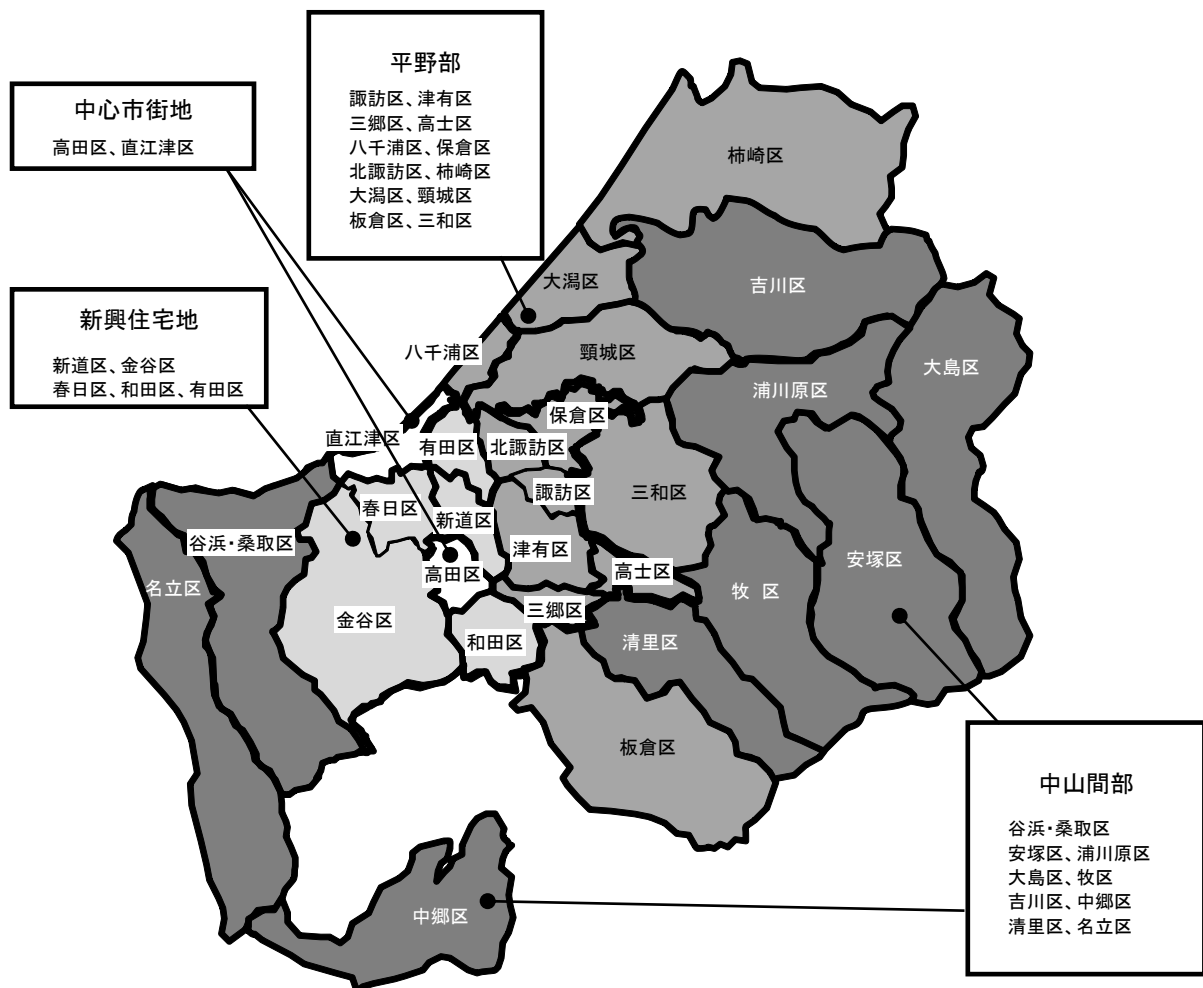
※母集団とは、18 歳以上の市内在住者の総数を表す。

(令和 7 年 12 月 1 日現在の住民基本台帳による。)

(2) 地域区分

居住地域ごとの回答の差異を分析するため、地勢的特徴に応じ、お住まいの地域自治区を「中心市街地」「新興住宅地」「平野部」「中山間部」の4つの地域区分に集約した。

お住まいの地域自治区			地域区分	
高田区	直江津区	⇒	中心市街地	
新道区	金谷区	⇒	新興住宅地	
春日区	和田区			
有田区	—			
諏訪区	津有区	⇒	平野部	
三郷区	高士区			
八千浦区	保倉区	⇒		
北諏訪区	柿崎区			
大潟区	頸城区			
板倉区	三和区			
谷浜・桑取区	安塚区	⇒	中山間部	
浦川原区	大島区			
牧区	吉川区			
中郷区	清里区			
名立区	—			



(3) 調査項目の省略表示

調査票では、上越市が現在行っている主な取組を6分野、64項目取り上げた。本報告書では、これらの調査項目を次のように省略し、表示している。

分野	調査票に表記した調査項目		⇒	本報告書に表記した調査項目
生活環境	(1)	火災、水害、地震などへの防災対策	⇒	防災対策
	(2)	防犯灯の設置など、防犯対策	⇒	防犯対策
	(3)	交通安全対策	⇒	交通安全対策
	(4)	大気や水質・騒音などの公害対策	⇒	公害対策
	(5)	二酸化炭素の発生抑制など、地球温暖化対策	⇒	地球温暖化対策
	(6)	ごみの減量化とリサイクルの推進	⇒	ごみ減量とリサイクル
	(7)	産業廃棄物の処理対策	⇒	産廃の処理対策
	(8)	太陽光発電など、再生可能エネルギーの普及	⇒	再生可能エネルギー
	(9)	自然保護、環境保全をすすめる啓発活動	⇒	環境啓発活動
健康福祉	(10)	地域福祉を支える市民のボランティア活動への支援	⇒	福祉ボランティア
	(11)	障害のある人、高齢者などが安全・安心に生活できるバリアフリーの環境づくり	⇒	バリアフリー
	(12)	障害のある人の教育や自立・社会参加の支援	⇒	障害のある人の自立・社会参加
	(13)	高齢者の介護サービスの充実や介護予防の推進	⇒	介護サービス
	(14)	レクリエーションなど、高齢者への生きがいづくりの支援	⇒	高齢者の生きがい支援
	(15)	医療費助成や育児相談など、子育て支援	⇒	子育て支援
	(16)	保育園の時間の延長や保育料の見直しなど、保育サービスの充実	⇒	保育サービスの充実
	(17)	妊娠、出産後の支援など、母子保健活動の推進	⇒	母子保健活動の推進
	(18)	健康意識の向上など健康づくり活動の推進	⇒	健康づくり
	(19)	こころの相談窓口設置など、こころの健康サポートの推進	⇒	こころの健康サポート
	(20)	医療を安定的に提供できる医療体制の確保	⇒	医療体制の充実
	(21)	生活の困窮や複雑な家庭環境などにより、自分や家族では解決困難な複合的な課題を抱える世帯への支援	⇒	課題を抱える世帯への支援

分野	調査票に表記した調査項目		⇒	本報告書に表記した調査項目
産業・経済	(22)	農業の振興	⇒	農業の振興
	(23)	ほ場や農道など農村地域の基盤整備	⇒	農村地域の基盤整備
	(24)	森林・林野の保全	⇒	森林・林野の保全
	(25)	水産業の振興	⇒	水産業の振興
	(26)	中小企業への支援	⇒	中小企業支援
	(27)	既存商店街の基盤整備や魅力づくりなど、商業の振興	⇒	商業の振興
	(28)	地場産業の育成や技術開発支援など、工業の振興	⇒	工業の振興
	(29)	企業団地の整備や支援制度の充実などによる企業誘致の促進	⇒	企業誘致の促進
	(30)	市民、事業者との連携による観光の振興	⇒	観光の振興
	(31)	全国的な会議や集会、スポーツ大会などを通じた来訪者の増加と交流の促進	⇒	来訪者の増進と交流の促進
	(32)	新しい産業の創出のための研究開発と創業・起業の支援	⇒	新産業の創出支援
	(33)	職業能力の開発やワークライフバランス（仕事と生活の調和）の促進などの就業支援	⇒	職能開発・就業支援
	(34)	農山村での宿泊体験事業など、地域資源を活用した「地域おこし」の推進	⇒	「地域おこし」の推進
教育・文化・スポーツ	(35)	幼稚園、小・中学校の施設の整備	⇒	学校施設の整備
	(36)	小・中学校教育内容の充実	⇒	小・中学校教育の充実
	(37)	趣味、教養を高める生涯学習の推進	⇒	生涯学習の推進
	(38)	青少年の健全育成のための体制充実	⇒	青少年の健全育成
	(39)	歴史・文化的資源の保存と活用	⇒	歴史的資源の保存と活用
	(40)	文化、芸術活動の推進	⇒	文化、芸術活動の推進
	(41)	国際的な文化交流の推進	⇒	国際的な文化交流の推進
	(42)	スポーツ・レクリエーションの振興	⇒	スポーツ・レクの振興

分野	調査票に表記した調査項目		⇒	本報告書に表記した調査項目
都市整備・生活基盤	(43)	通学路をはじめとする身近な生活道路の整備	⇒	身近な生活道路の整備
	(44)	主要幹線道路の整備	⇒	主要幹線道路の整備
	(45)	鉄道やバスなどの利便性の向上	⇒	公共交通の利便性向上
	(46)	除雪、克雪などの雪対策	⇒	雪対策
	(47)	災害に強い河川、海岸線の整備	⇒	災害に強い河川、海岸線
	(48)	水道水の供給	⇒	水道水の供給
	(49)	下水道の整備など、生活排水の処理対策	⇒	生活排水の処理対策
	(50)	区画整理事業などによる市街地の形成	⇒	市街地の形成
	(51)	公営住宅整備や持ち家支援など、居住空間の確保	⇒	居住空間の確保
	(52)	上越妙高駅周辺の活性化	⇒	上越妙高駅周辺の活性化
	(53)	直江津港の利用促進	⇒	直江津港の利用促進
	(54)	市民の憩いの場としての公園・緑地の整備	⇒	公園・緑地の整備
	(55)	美しい街並みや地域の個性をいかした景観の形成	⇒	美しい街並みや景観の形成
行財政・市民参画	(56)	行政改革による効率的・効果的な市政運営	⇒	効率的・効果的な市政運営
	(57)	財源確保や適正な支出による健全な財政運営	⇒	健全な財政運営
	(58)	行政から市民への情報提供の充実	⇒	情報提供の充実
	(59)	男女共同参画社会の実現	⇒	男女共同参画社会の実現
	(60)	外国人を含めた共生社会の推進	⇒	外国人を含めた共生社会の推進
	(61)	各種委員会への公募市民の登用やパブリックコメント（市民意見公募手続）など、市民参画のまちづくり	⇒	市民参画のまちづくり
	(62)	中山間地域の集落や里地里山の維持・保全	⇒	中山間地域の維持・保全
	(63)	まちづくり団体など、地域コミュニティ活動への支援	⇒	地域コミュニティ活動支援
	(64)	UIJ ターンの促進	⇒	UIJ ターンの促進

(4) 過去の調査との比較

経年変化の比較対象となる、前回（令和 4 年）と前々回（平成 30 年）に実施した「市民の声アンケート」結果の概要は、次のとおりである。

	今回調査	前回調査	前々回調査
調査地域	上越市全域		
調査対象	満 18 歳以上の市民 3,000 人	満 18 歳以上の市民 5,000 人	
調査方法	郵送による配布 郵送またはウェブサイトによる回収		郵送による配布・回収
調査期間	令和 8 年 1 月 7 日～21 日	令和 4 年 1 月 14 日～25 日	平成 30 年 1 月 20 日～31 日
回収数	1,524	2,271	2,168
有効回答率	50.80%	45.42%	43.36%

【比較を行った設問一覧】

今回調査	前回調査	前々回調査
【問 1】生活実態・実感	○	○
【問 2 (1) ～ (64)】市の取組に対する満足度・重要度	○	○
【問 2 (65)】地域自治区制度に対する認知度	○	○
【問 2 (66)】地域協議会に対する認知度	○	○
【問 3 (1)】暮らしやすさ	○	○
【問 3 (2)】上越市に住み続ける意向	○	○
【問 3 (3)】住み続けたい地域	○	○
【問 4】地域活動や市民活動への参加	○	○

2 調査結果

2-1 【問1】 生活実態・実感

現在の生活実感・生活実態（26 項目）について、うかがった。

実感の高い項目※¹：「自然が豊かである」

「治安がよい」

「海の幸や山の幸に恵まれ、食や特産物が豊富である」

実感の低い項目※²：「観光 PR が盛んで、観光客が多い」

「市外からの来訪者との交流の機会が多い」

「バスや鉄道などの公共交通の便がよい」

前回から上昇率の高い項目※³：「美しい街並みや景観が整っている」

「買い物が便利である」

「働く場が整っている」

前回から低下率の高い項目※⁴：「出産や子育てがしやすい」

「医療に関するサービスが整っている」

「集落や町内会などの活動が盛んである」

※1：「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計

※2：「あまり感じない」、「全く感じない」の合計

※3：令和8年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計と、令和4年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計の差で、上昇が大きいもの

※4：令和8年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計と、令和4年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計の差で、低下が大きいもの

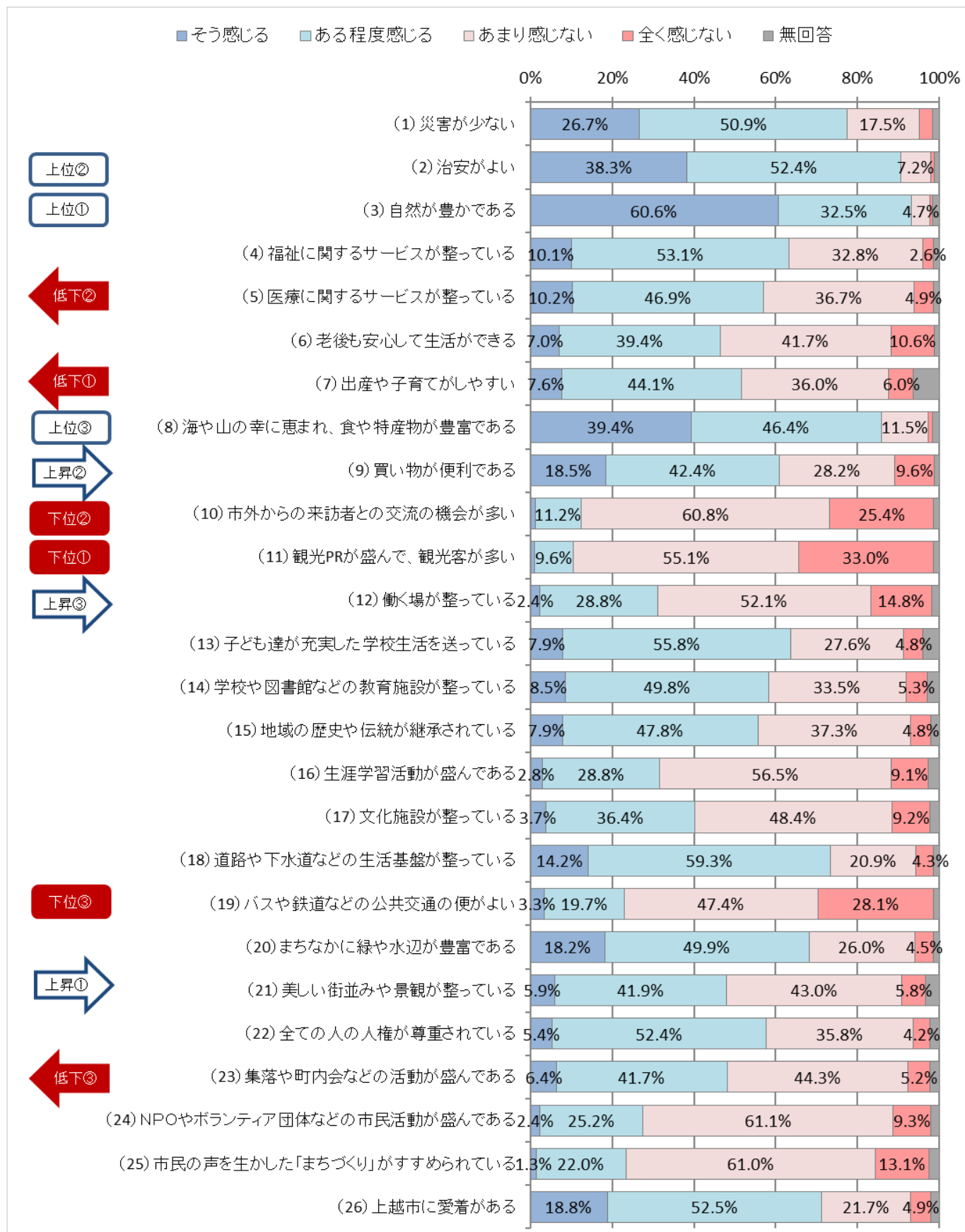
各項目の集計結果は次ページのとおり。

図表中のグラフと凡例の表示の並び順は一致している。

※以下、全てのページにおけるグラフと凡例の表示で共通

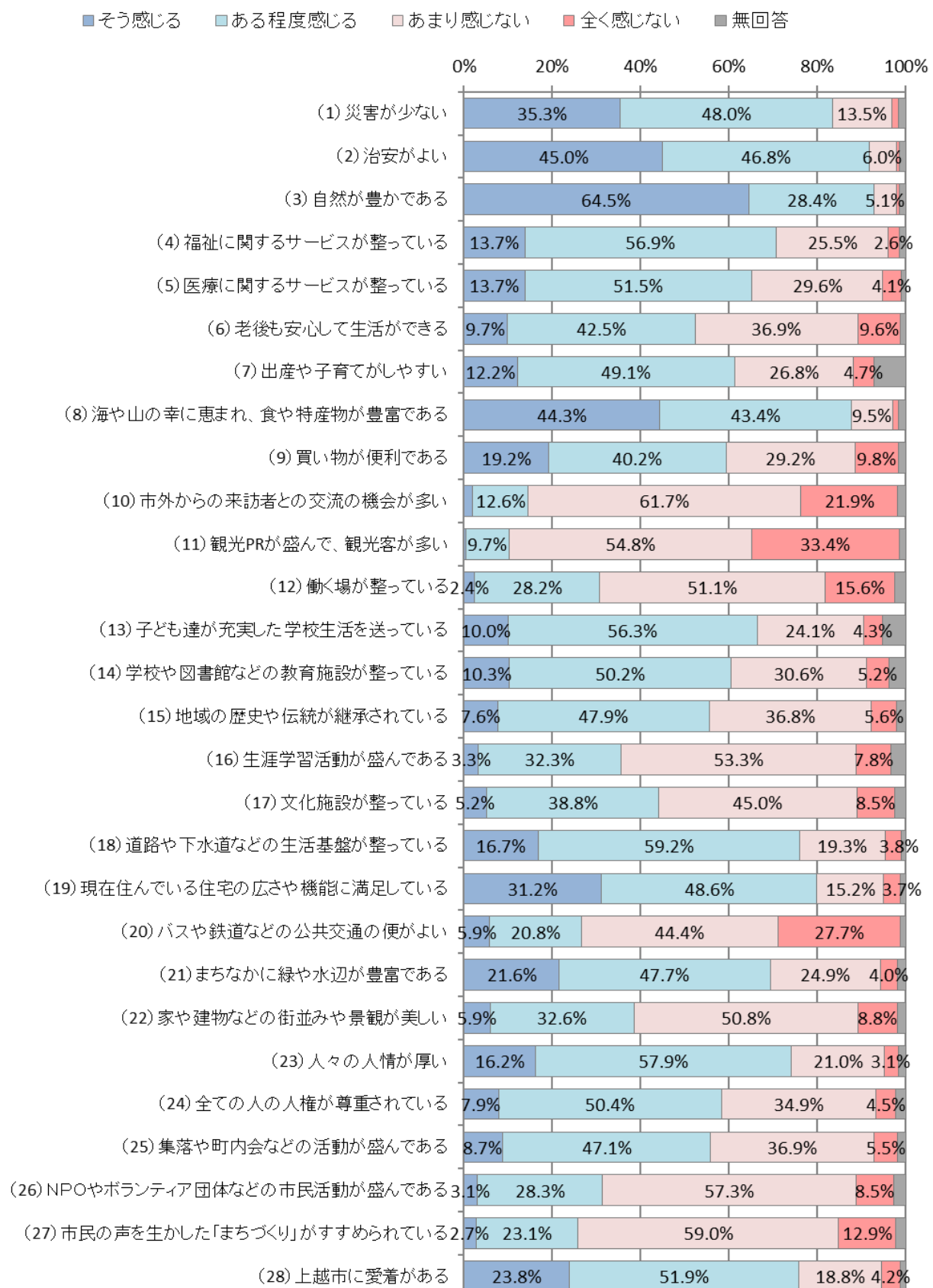
単純集計

□ : 実感の上位項目 ■ : 実感の下位項目
 ➡ : 前回から上昇率の高い項目 ← : 前回から低下率の高い項目



【参考】

前回調査(R4) 結果

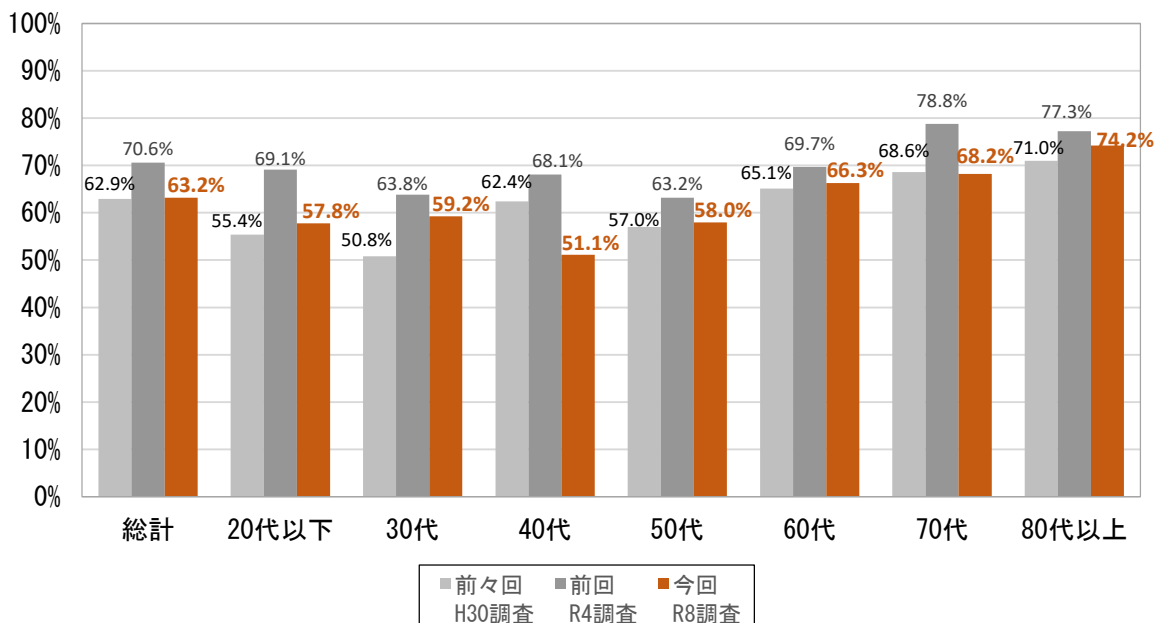


クロス集計【年代や地域で回答に差異があった主なもの】

「（４）福祉に関するサービスが整っている」と感じている市民の割合

※「そう感じる」「ある程度感じる」の合計。以下同様。

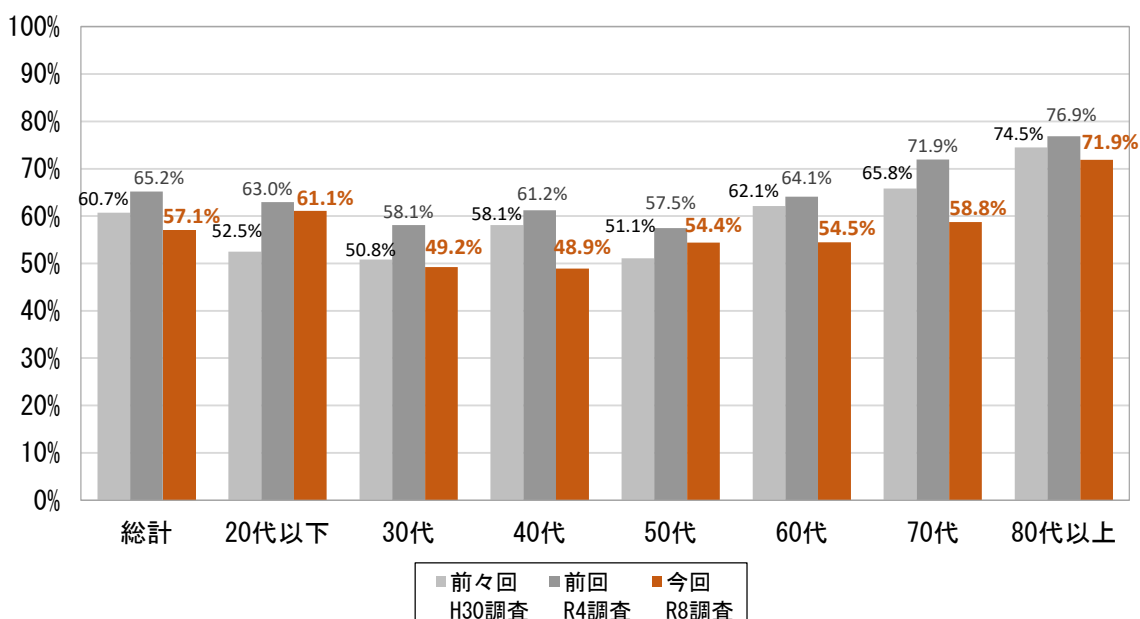
年代別



40代で低く、60代以上で高くなっている。

「（５）医療に関するサービスが整っている」と感じている市民の割合

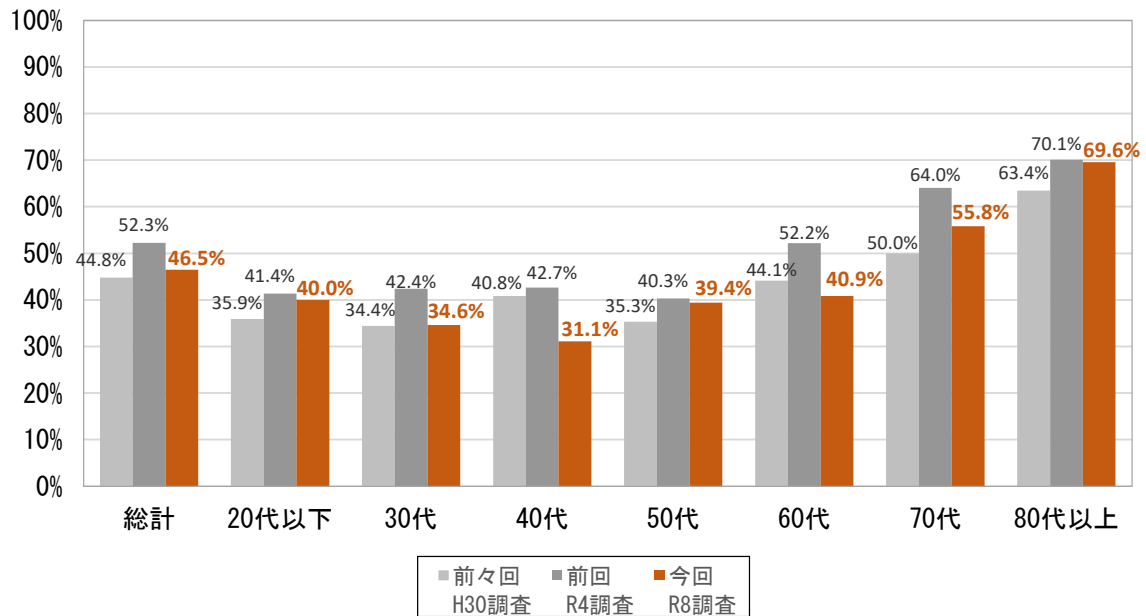
年代別



30代と40代で低く、80代以上で高くなっている。

「（６）老後も安心して生活ができる」と感じている市民の割合

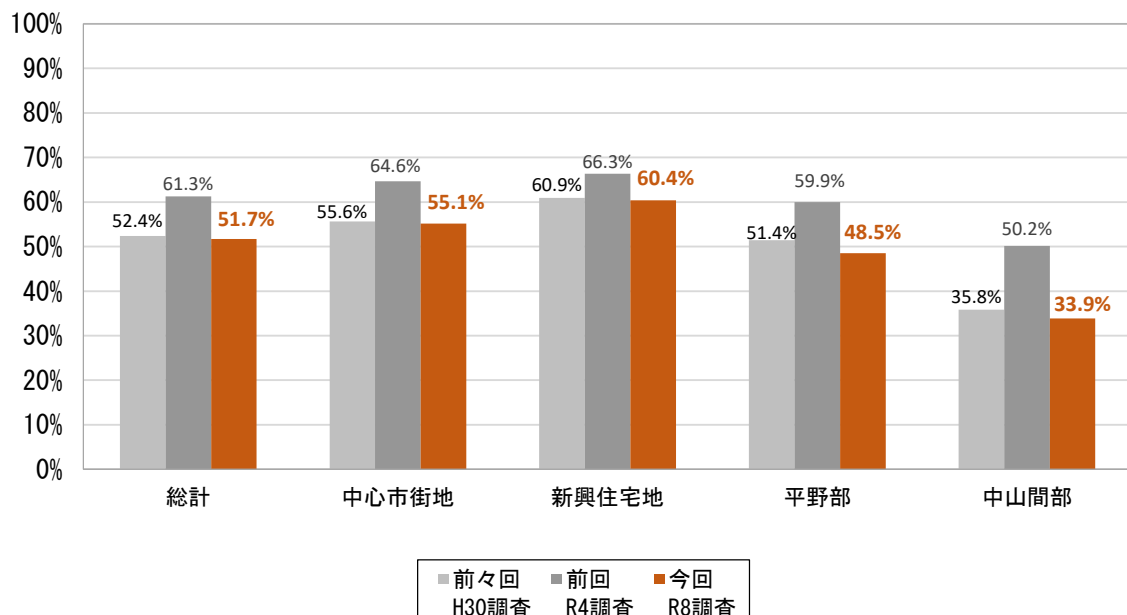
年代別



20代以下から60代までで低く、70代以上で高くなっている。

「（７）出産や子育てがしやすい」と感じている市民の割合

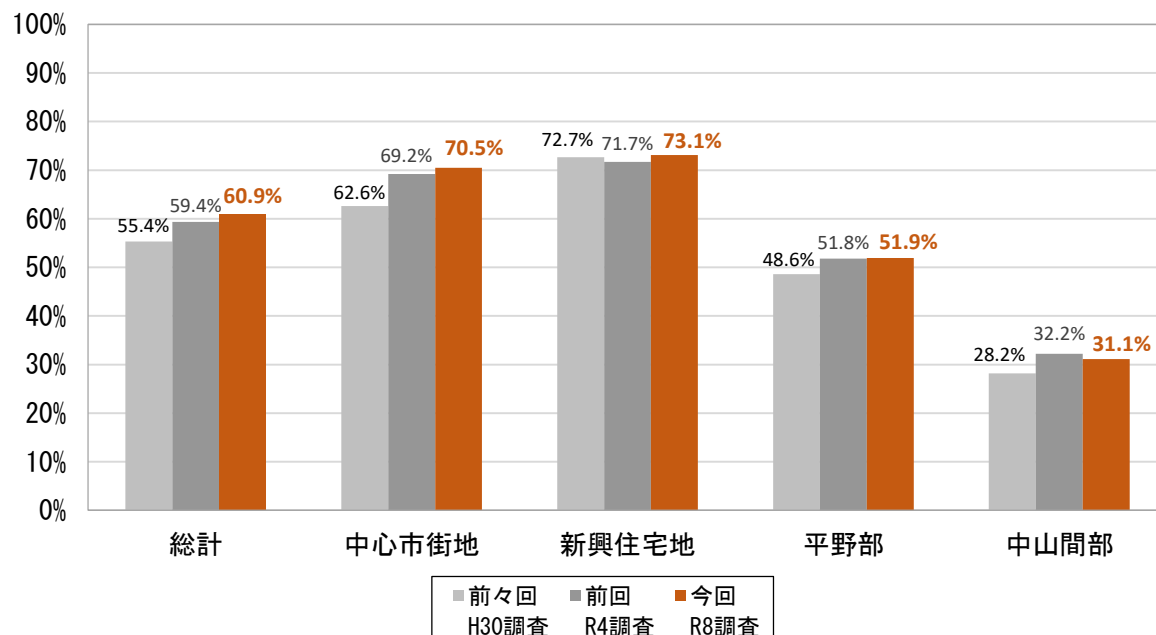
地域別



新興住宅地で高く、中山間部で低くなっている。

「（９）買い物が便利である」と感じている市民の割合

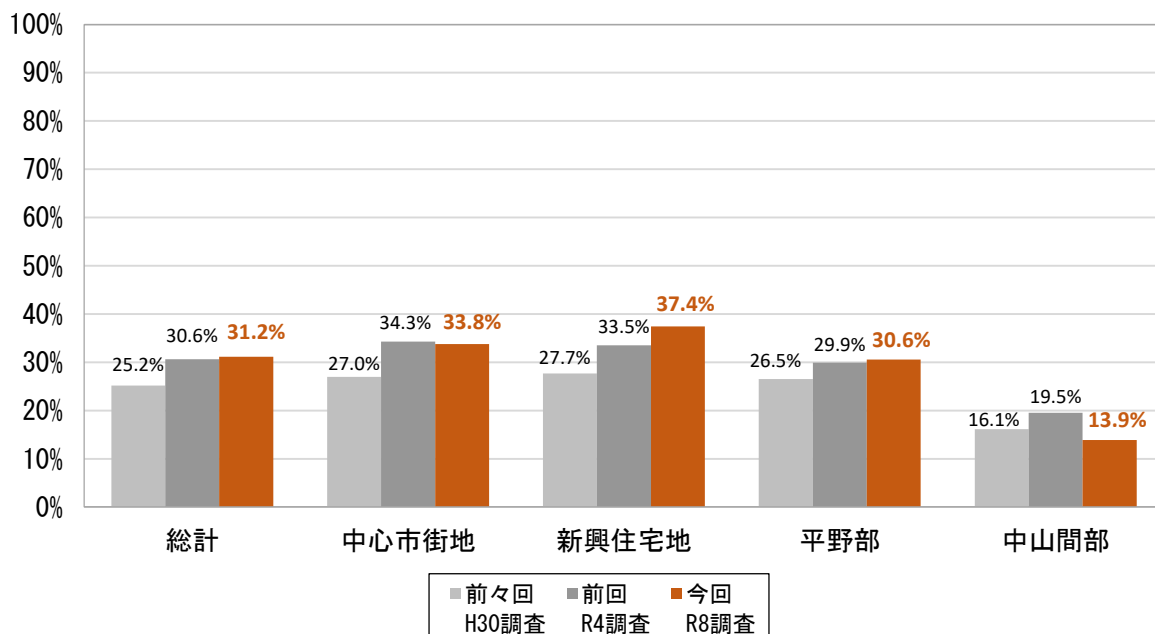
地域別



平野部と中山間部で低くなっている。

「（１２）働く場が整っている」と感じている市民の割合

地域別



中山間部で著しく低くなっている。

2-2 【問 2 (1)～(64)】 市の取組に対する満足度・重要度

市が行っている取組について、現在の満足度と今後の重要度をうかがった。

【取組項目の設定】

前回調査との経年比較をするため、前回調査時の取組項目を継続しつつ、必要な項目を追加し、64 項目を設定した。

分野	項目	現在の満足度					今後の重要度				
		満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	たいへん重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
【記入例】		5	④	3	2	1	5	4	3	②	1
生活環境	(1) 火災、水害、地震などへの防災対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	(2) 防犯灯の設置など、防犯対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	(3) 交通安全対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	(4) 大気や水質・騒音などの公害対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

【比較の方法】

満足度と重要度の評価を点数化した「平均スコア」※により各項目の比較を行った。

※「平均スコア」の算出方法

- ・満足度の平均スコアは、「満足している」に＋2、「やや満足している」に＋1、「どちらともいえない」に 0、「やや不満である」に－1、「不満である」に－2 をそれぞれの回答数にかけ合わせ、その平均点について、小数点以下第 3 位を四捨五入し、小数点以下第 2 位までを表示している。
- ・重要度の平均スコアも満足度と同様に、「たいへん重要である」に＋2、「ある程度重要である」に＋1、「どちらともいえない」に 0、「あまり重要ではない」に－1、「重要ではない」に－2 をかけ合わせ、算出している。
- ・無回答の数は計算から除外している。
- ・項目ごとの平均スコアの順位を比較する際は、小数点以下第 3 位を四捨五入せずに算出している。

2-2-1 現在の満足度

64 項目全体の平均スコアは 0.05 であり、前回(0.06)と比べて低下した。

■今回調査における上位、下位の項目

上位 3 項目

順位	項目	平均スコア
①	(48)水道水の供給	0.65
②	(49)生活排水の処理対策	0.61
③	(6)ごみ減量とリサイクル	0.52

下位 3 項目

順位	項目	平均スコア
①	(45)公共交通の利便性向上	▲ 0.50
②	(52)上越妙高駅周辺の活性化	▲ 0.40
③	(27)商業の振興	▲ 0.32

上位 3 項目、下位 3 項目ともに前回調査と同じであった。
都市整備・生活基盤分野の一部項目と産業・経済分野が低い。

■前回調査と比較して、上昇、低下した項目

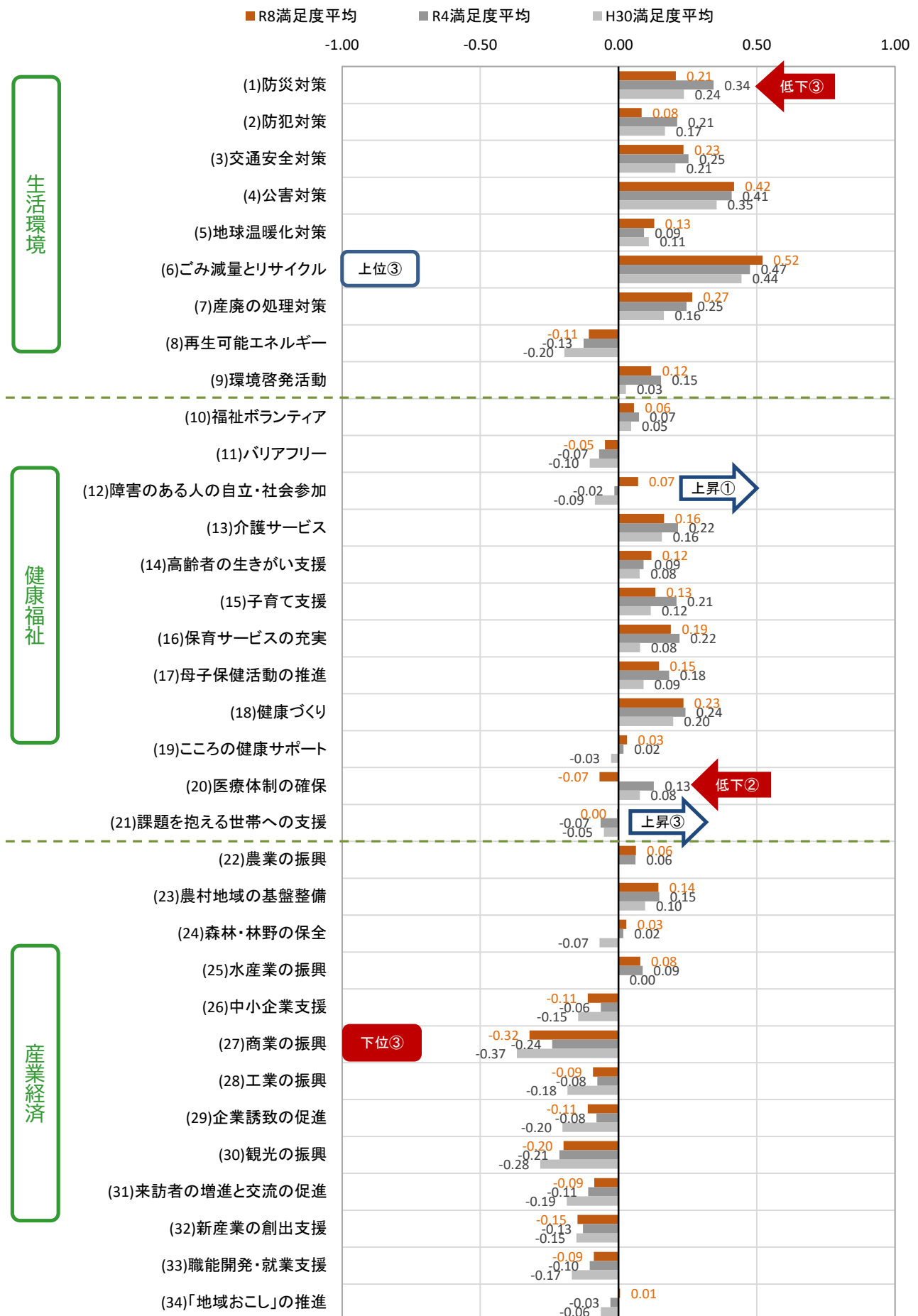
上昇 3 項目

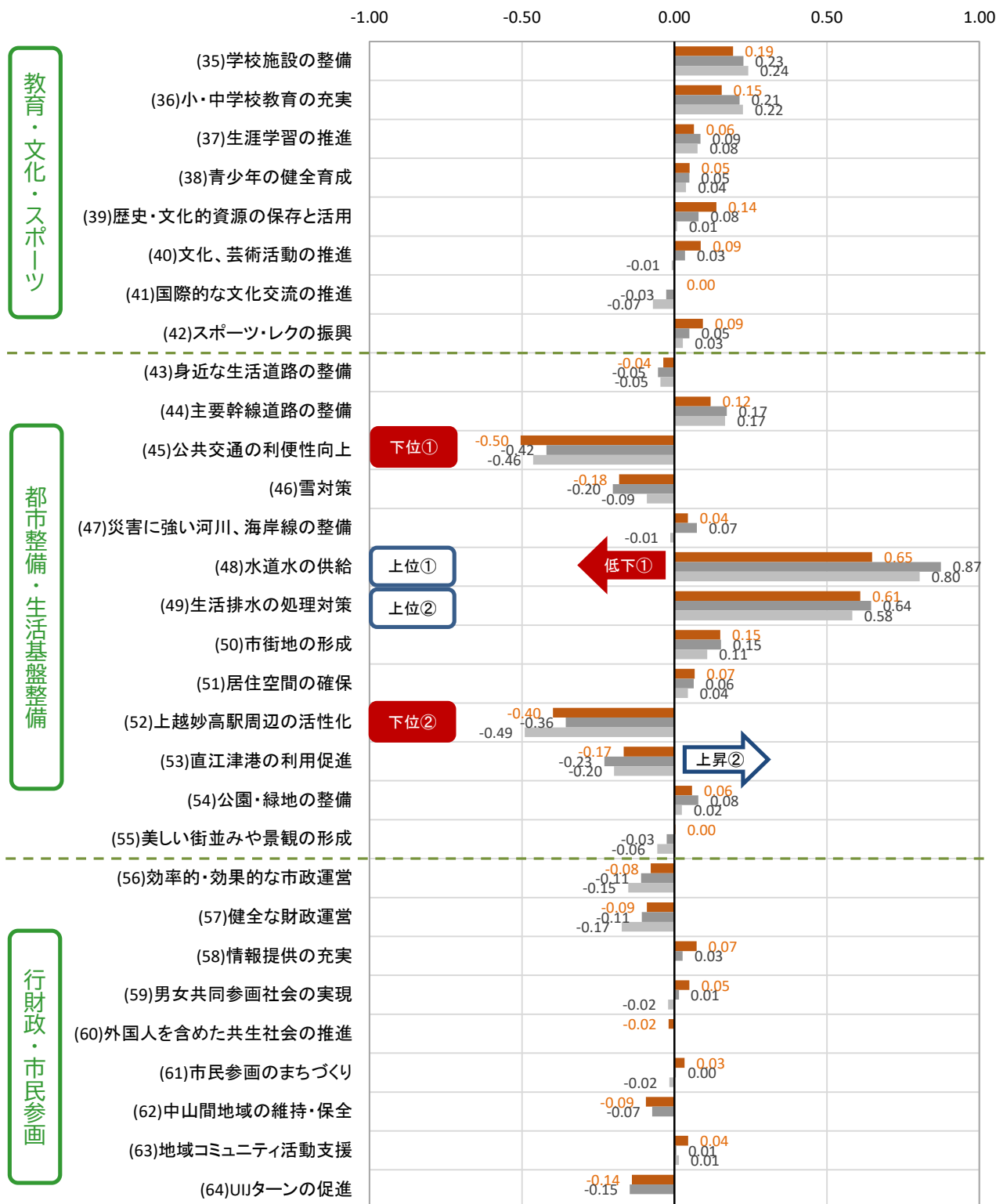
順位	項目	平均スコア
①	(12)障害のある人の自立・社会参加	+0.09
②	(53)直江津港の利用促進	+0.06
③	(21)課題を抱える世帯への支援	+0.06

低下 3 項目

順位	項目	平均スコア
①	(48)水道水の供給	▲ 0.23
②	(20)医療体制の確保	▲ 0.20
③	(1)防災対策	▲ 0.14

前回調査と比べて満足度が最も上昇したのは「(12)障害のある人の自立・社会参加」であり、「(21)課題を抱える世帯への支援」を含め、健康福祉分野の複数の項目が上昇した。
「(48)水道水の供給」は、前回調査と比べて最も低下したものの、全項目の中で最も高い満足度であった。





2-2-2 今後の重要度

64 項目全体の平均スコアは 0.89 であり、前回(0.94)と比べて低下した。

■今回調査における上位、下位の項目

上位 3 項目

順位	項目	平均スコア
①	(1)防災対策	1.52
②	(46)雪対策	1.48
③	(20)医療体制の充実	1.42

下位 3 項目

順位	項目	平均スコア
①	(60)外国人を含めた共生社会の推進	0.37
②	(41)国際的な文化交流の推進	0.42
③	(61)市民参画のまちづくり	0.46

上位3項目は前回調査と同じであった。生活環境分野のうち防災・防犯に関する項目や都市整備・生活基盤整備分野の一部項目が比較的高い。
教育・文化・スポーツ分野と行財政・市民参画分野の一部項目が比較的低い。

■前回調査と比較して上昇、低下した項目

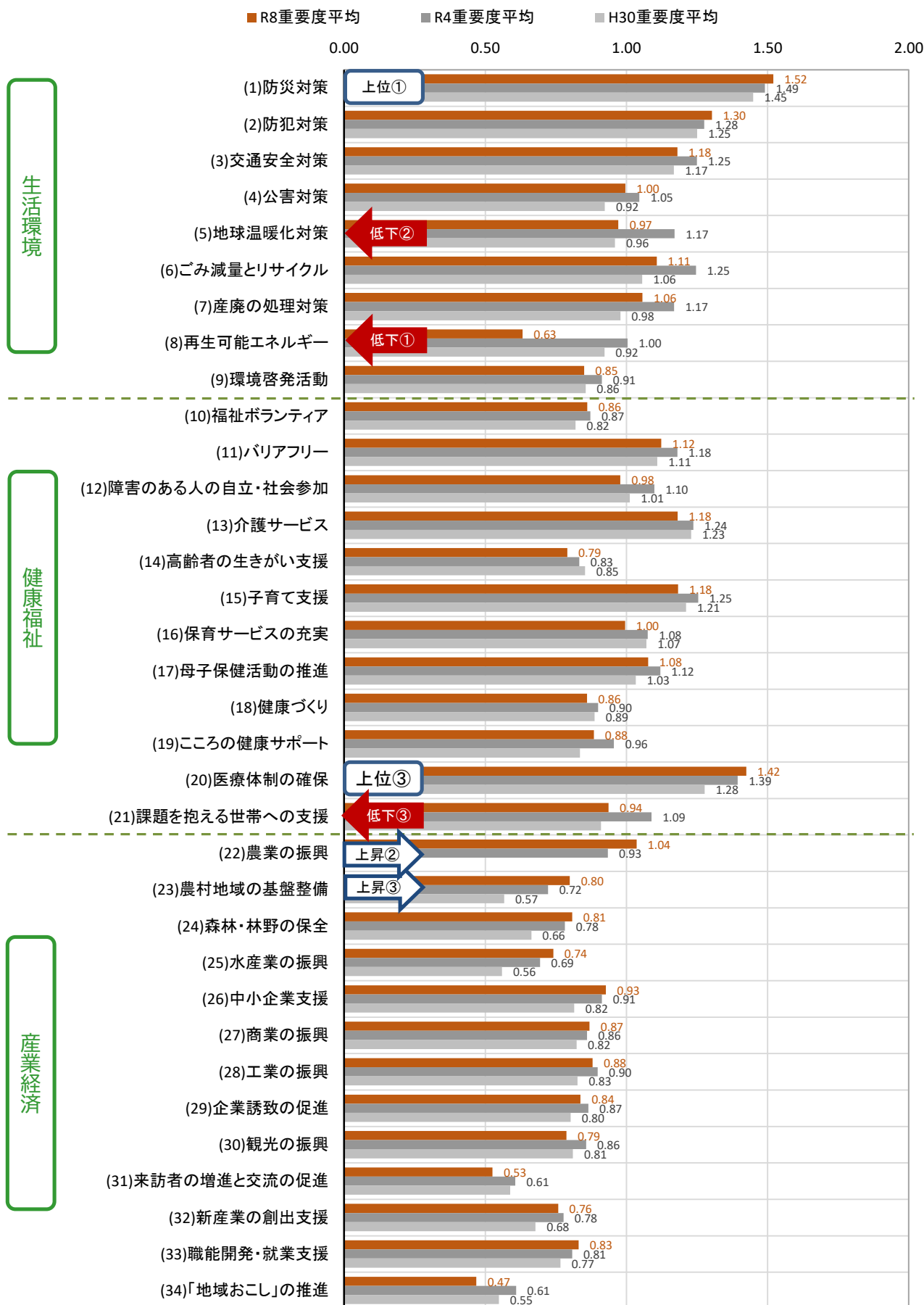
上昇 3 項目

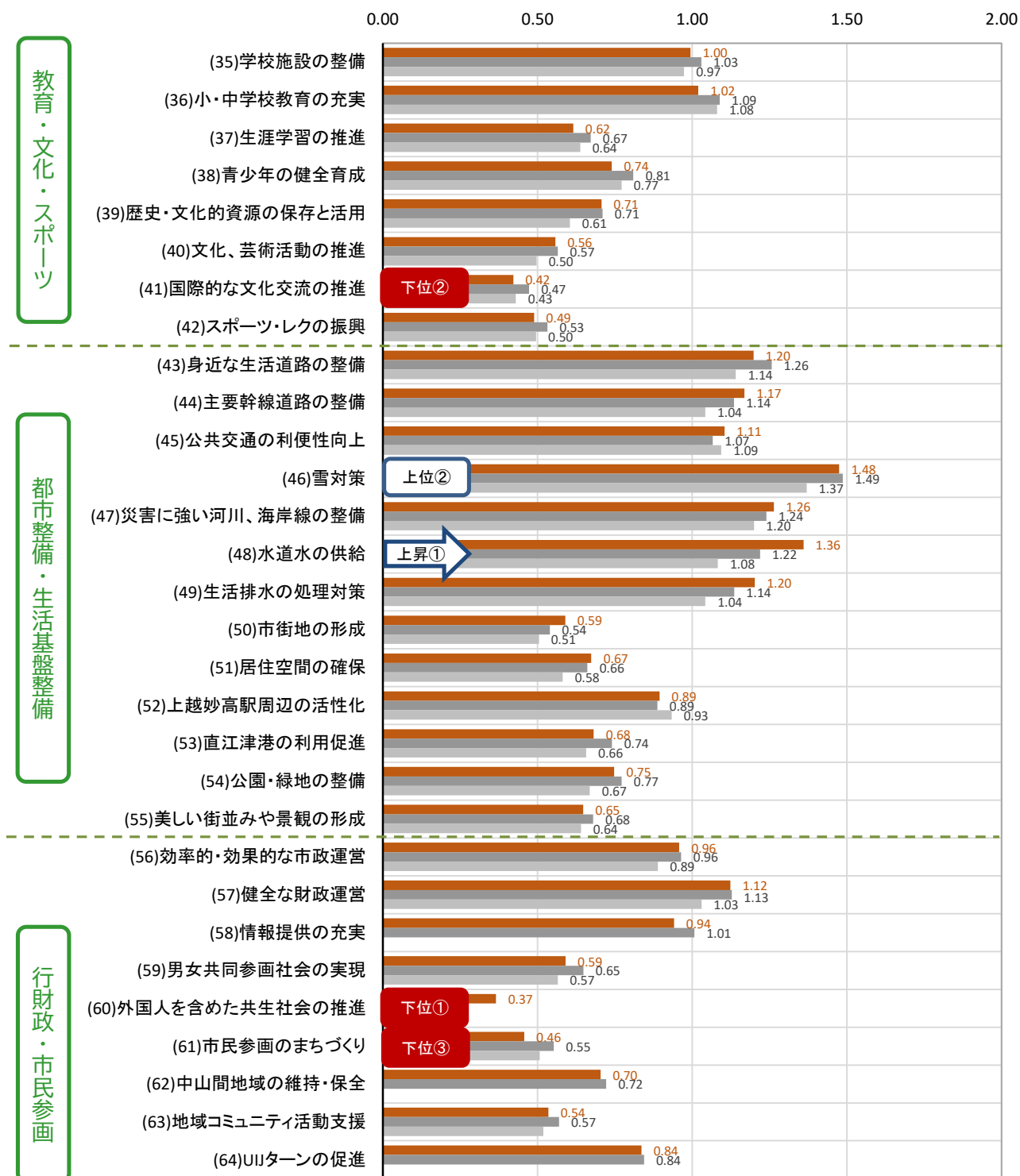
順位	項目	平均スコア
①	(48)水道水の供給	+0.14
②	(22)農業の振興	+0.10
③	(23)農村地域の基盤整備	+0.08

低下 3 項目

順位	項目	平均スコア
①	(8)再生可能エネルギー	▲ 0.37
②	(5)地球温暖化対策	▲ 0.20
③	(21)課題を抱える世帯への支援	▲ 0.15

「(48)水道水の供給」など、都市整備・生活基盤整備分野の多くの項目が上昇した。
「(8)再生可能エネルギー」「(5)地球温暖化対策」など、生活環境分野のうち環境に関する項目が低下した。





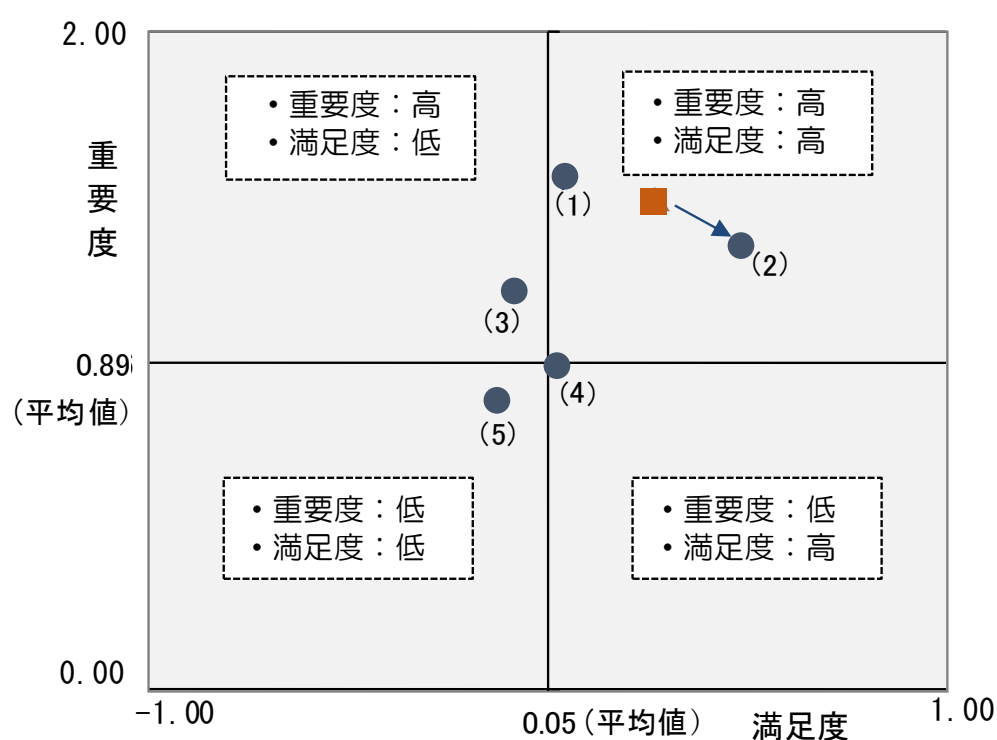
2-2-3 満足度と重要度の比較(プロット図)

【プロット図の見方】

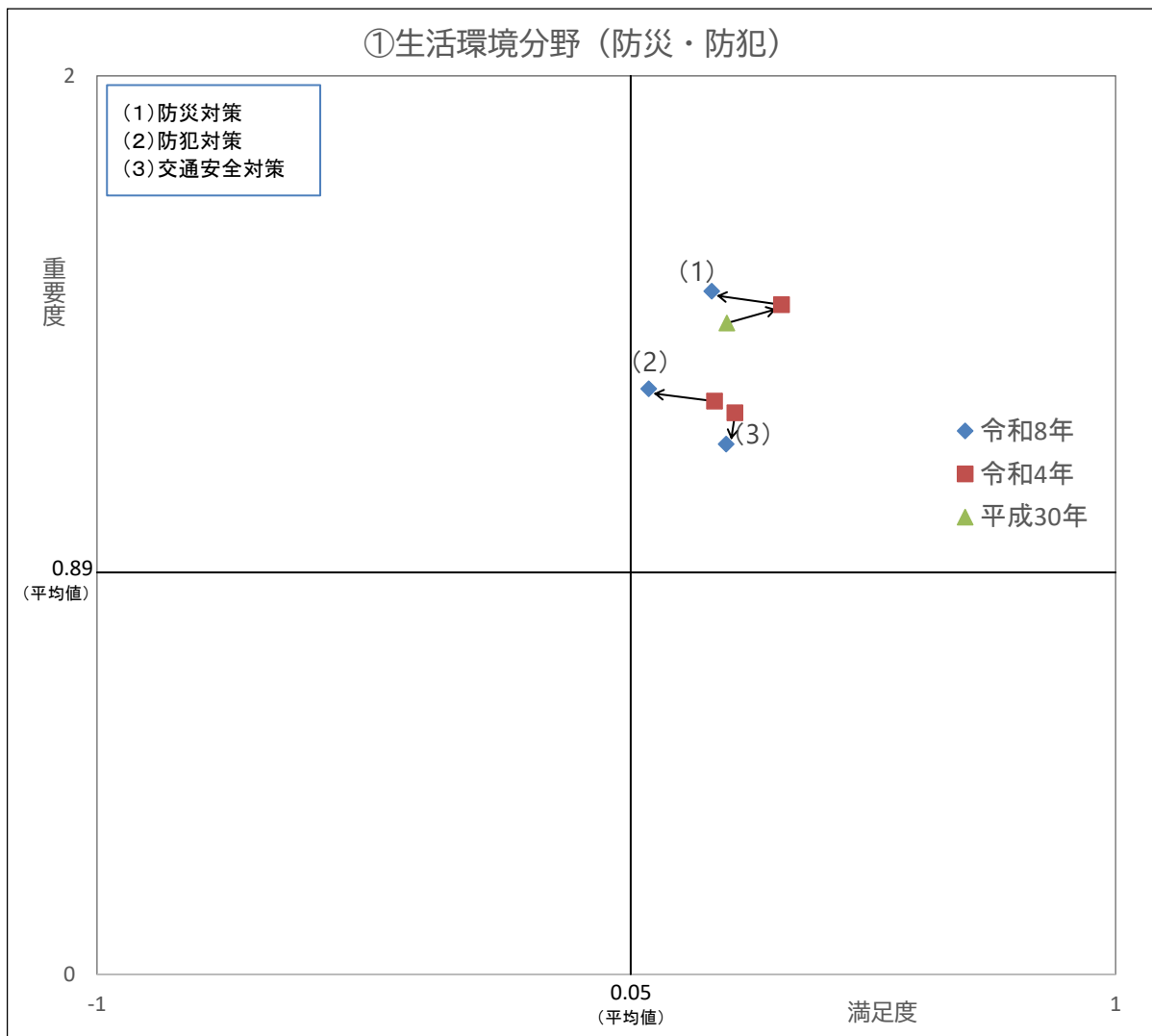
プロット図は、横軸に満足度の平均スコアを、縦軸に重要度の平均スコアをとり、各項目を表したものである。

図の中心点は、64 項目の全体の平均スコア（満足度 0.05、重要度 0.89）を示している。

また、平成 30 年及び令和 4 年に実施した調査結果と比較して、満足度と重要度の平均スコアの変化が大きかった項目は、変化の様子を示した。



※変化が大きかった項目の一部については、想定される変化の要因などの考察を記載している。



■ 変化が大きい項目

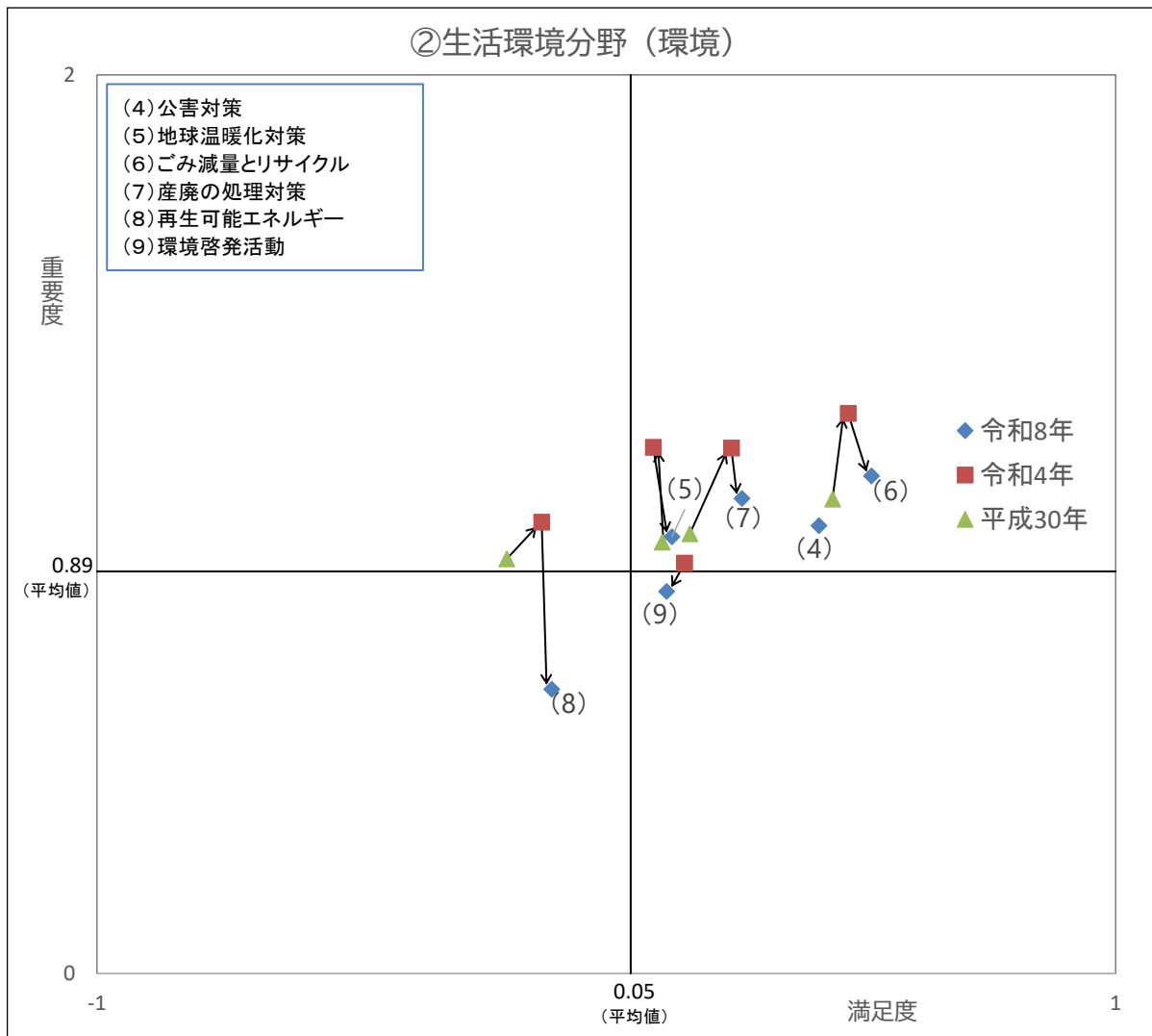
満足度	重要度
●低下…(1)防災対策、(2)防犯対策	●低下…(3)交通安全対策

全ての項目において、満足度・重要度ともに各平均値(0.05・0.89)を上回っている。

「(1)防災対策」では、令和6年の能登半島地震をはじめとする全国的な自然災害の激甚化・頻発化を受け、市民の危機感・不安感が高まり、相対的に防災対策に対する満足度が低下したと考えられる。

「(2)防犯対策」では、多様化する特殊詐欺等の犯罪が絶えず、市民の不安感につながったことなどから、満足度が低下したと考えられる。

「(3)交通安全対策」では、交通安全に対する啓発活動により、市民の交通安全に対する知識や意識が定着するとともに、安全運転支援装置の普及により、車の安全機能が向上したことから、相対的に重要度が低下したと考えられる。



■ 変化が大きい項目

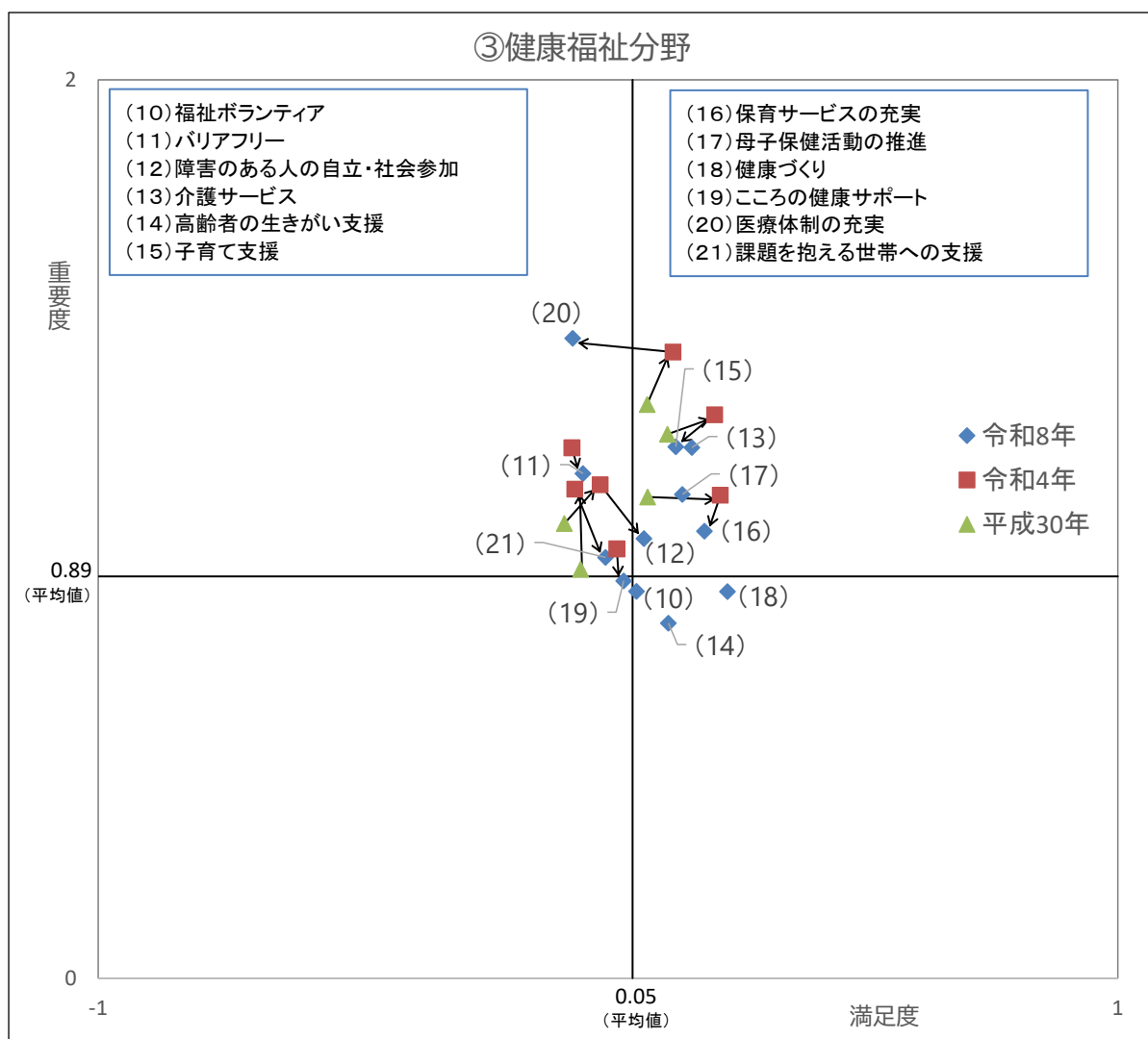
満足度	重要度
—	●低下…(5)地球温暖化対策、(6)ごみ減量とリサイクル、(7)産廃の処理対策、(8)再生可能エネルギー、(9)環境啓発活動

多くの項目で、前回調査から重要度が低下した一方で、満足度が上昇した。

「(5)地球温暖化対策」、「(8)再生可能エネルギー」では、昨今の物価高騰の影響等から、市民の日常生活に直結する分野への関心が高まり、日常生活への影響が小さい環境分野の取組に対する重要度が相対的に低下したと考えられる。

「(6)ごみ減量とリサイクル」では、ごみや資源物等の適正処理を推進してきたほか、各種啓発活動を通じて、ごみ減量に対する意識が市民に一定程度定着してきたことから満足度が上昇し、相対的に重要度が低下したと考えられる。

「(7)産廃の処理対策」では、不法投棄の監視や回収作業、未然防止に向けた各種対策等により、大規模な不法投棄事案の発生が抑制されている状況などを受け、相対的に重要度が低下したと考えられる。



■ 変化が大きい項目

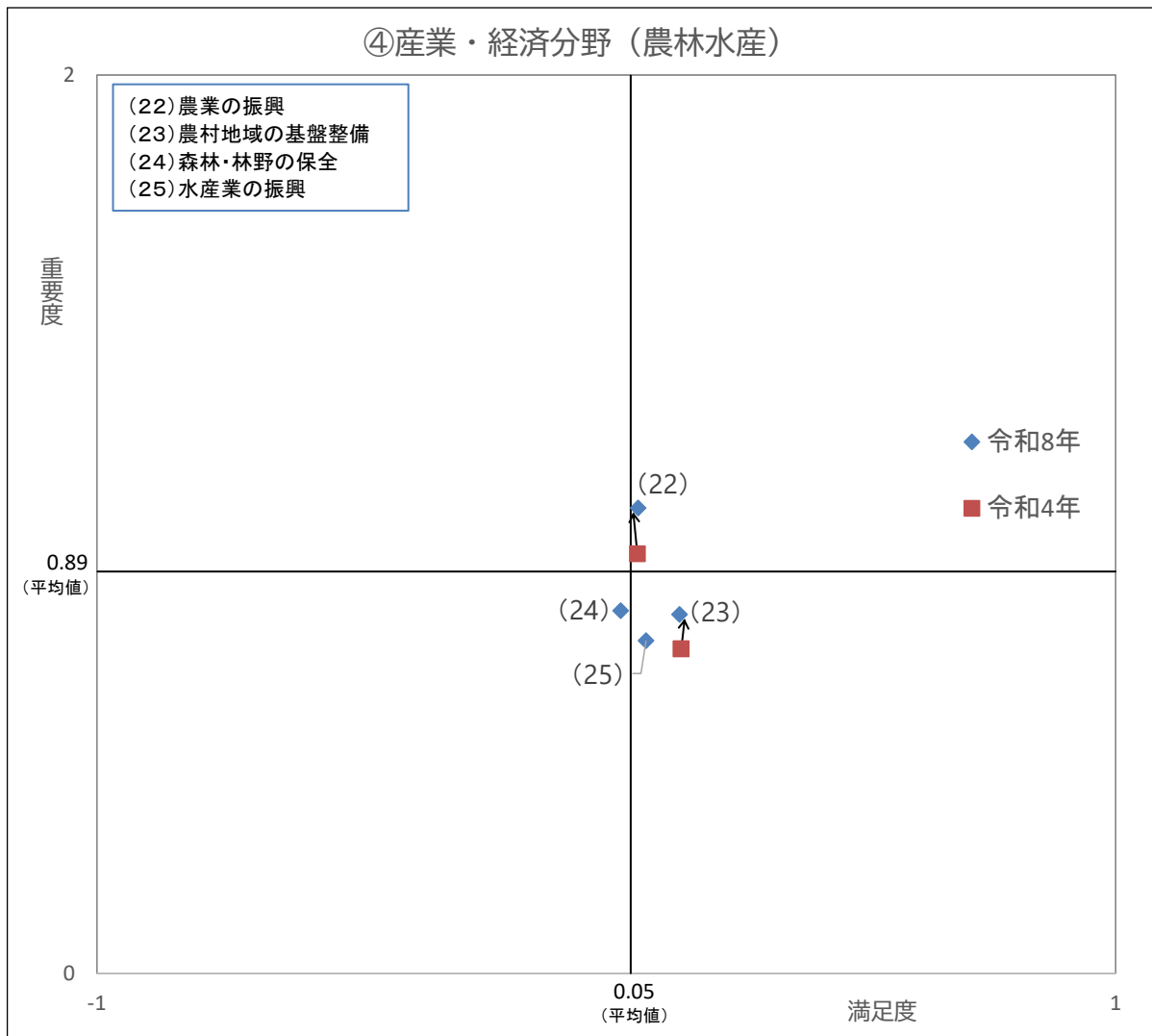
満足度	重要度
○上昇…(12)障害のある人の自立・社会参加、(21)課題を抱える世帯への支援 ●低下…(13)介護サービス、(15)子育て支援、(20)医療体制の充実	●低下…(11)バリアフリー、(12)障害のある人の自立・社会参加、(13)介護サービス、(15)子育て支援、(16)保育サービスの充実、(19)こころの健康サポート、(21)課題を抱える世帯への支援

多くの項目で前回調査から重要度が低下した。

「(12)障害のある人の自立・社会参加」では、就労に向けた支援や交流の場の充実が図られたことにより、満足度が上昇した一方で、福祉制度や相談体制の充実により、相対的に重要度は低下したと考えられる。

「(15)子育て支援」では、子ども医療費助成の拡充など各種支援の充実を図っているものの、長期化する物価高騰の影響により、家庭での負担軽減効果が実感されにくい状況にあることに加え、子育て支援に対する期待の高まりを受け、満足度の低下につながったものと考えられる。

「(20)医療体制の充実」では、人口減少や高齢化の進行の影響等により医師や看護師不足が顕在化している現状から、満足度が低下したと考えられる。

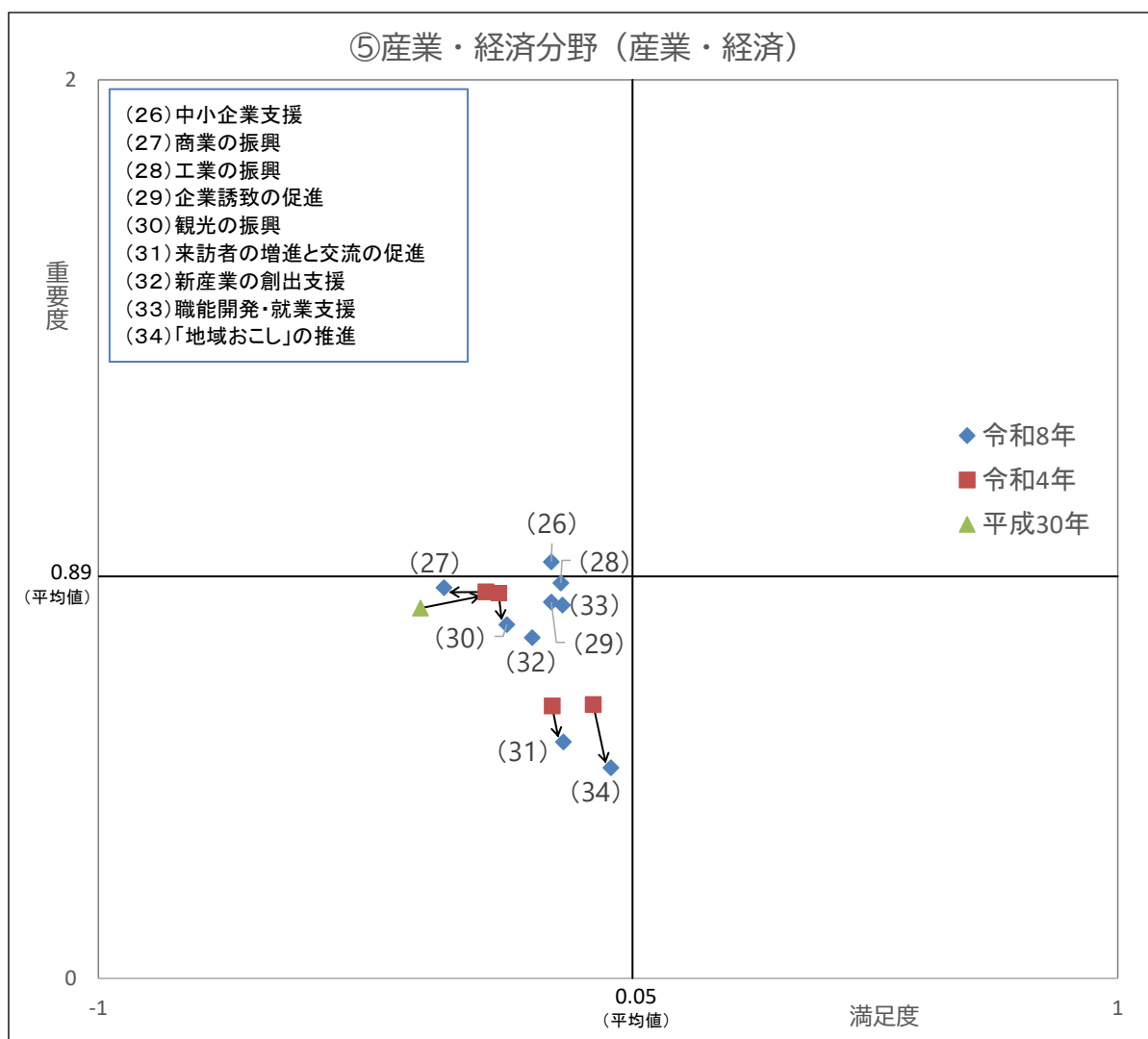


■ 変化が大きい項目

満足度	重要度
—	○上昇…(22)農業の振興、(23)農村地域の基盤整備

全ての項目で前回調査から重要度が上昇した。

「(22) 農業の振興」では、米不足による米価の高騰や食料品の価格高騰など、食に関する話題が取り上げられる機会が増え、市民の食料安全保障や農業に対する関心が高まったことなどから、重要度が上昇したと考えられる。



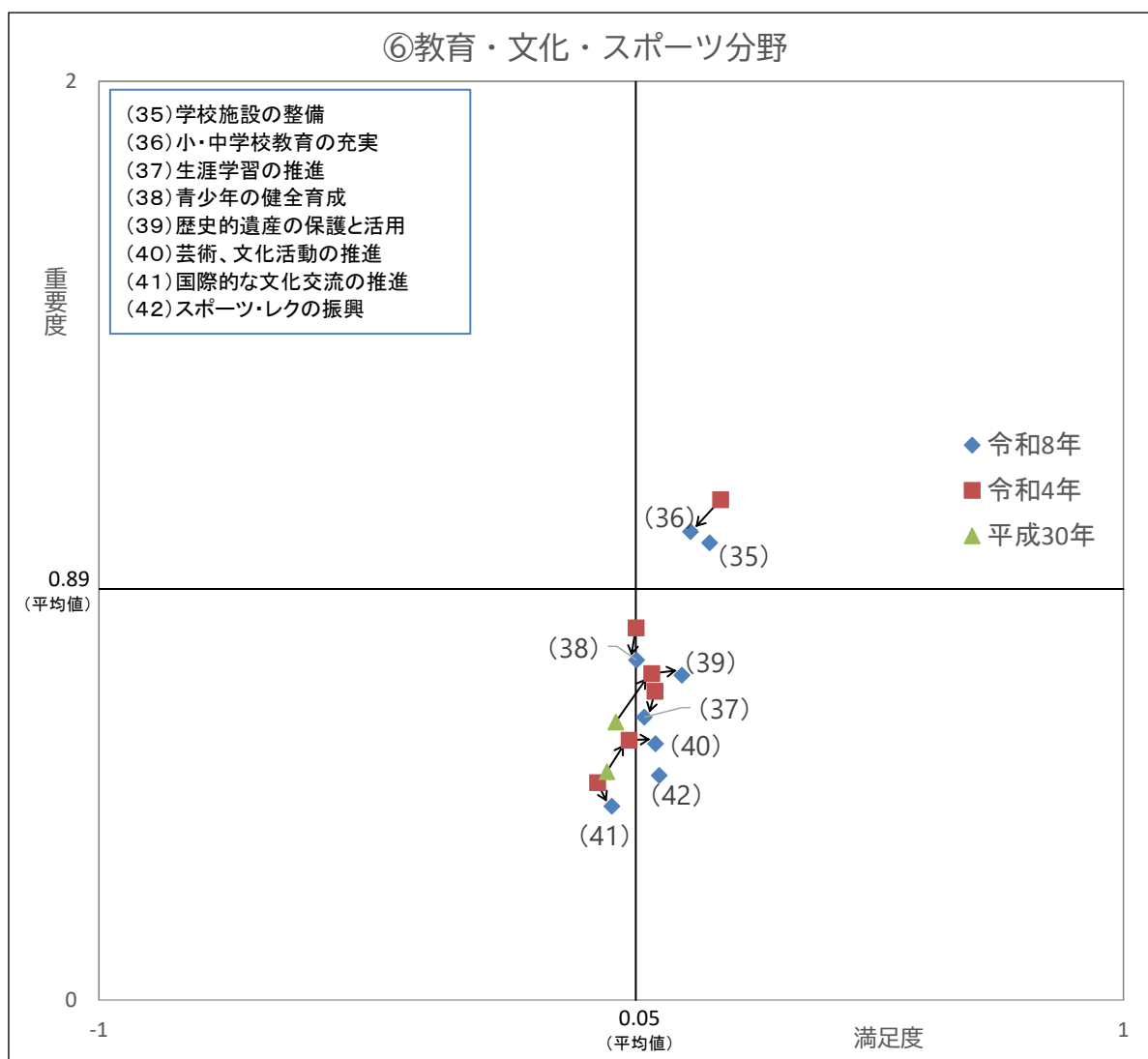
■ 変化が大きい項目

満足度	重要度
●低下…(27)商業の振興	●低下…(30)観光の振興、(31)交流の促進、(34)「地域おこし」の推進

ほぼ全ての項目において、満足度・重要度ともに各平均値(0.05・0.89)を下回っている。

「(27)商業の振興」では、商店街における賑わいづくりや空き店舗解消に向けた取組が、市民の実感として感じにくいことに加え、オンラインショッピングなど市民の購買行動の変化等から、満足度が低下したと考えられる。

「(30)観光の振興」、「(31)交流の促進」、「(34)「地域おこし」の推進」では、昨今の物価高騰の影響等から、市民の日常生活に直結する分野への関心が高まり、日常生活への影響が小さい観光分野に対する取組の重要度が相対的に低下したと考えられる。



■ 変化が大きい項目

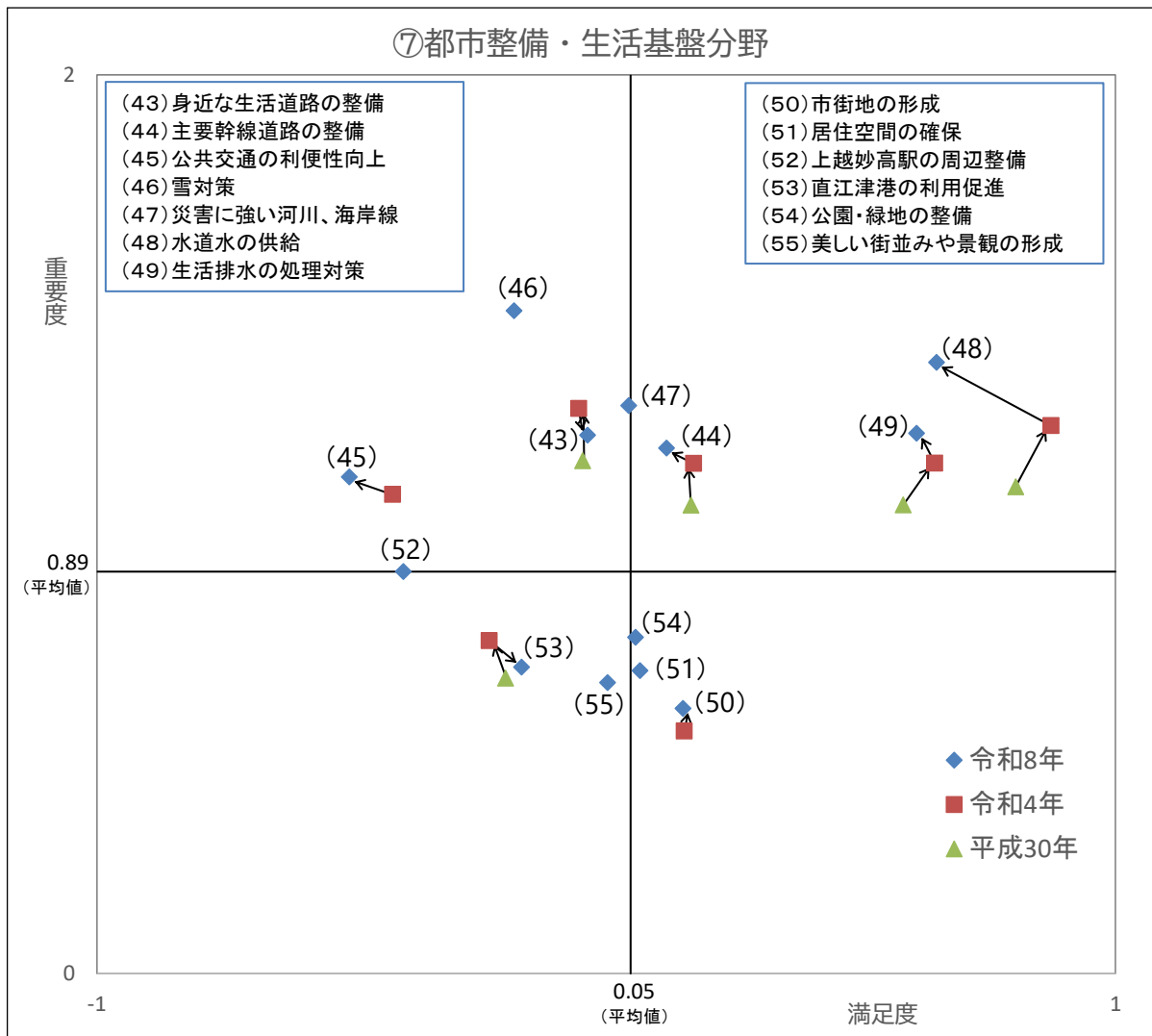
満足度	重要度
○上昇…(39)歴史的資源の保存と活用、 (40)文化、芸術活動の推進	●低下…(36) 小・中学校教育の充実、 (37)生涯学習の推進、(38)青少年の健全 育成、(41)国際的な文化交流の推進
●低下…(36)小・中学校教育の充実	

全ての項目で前回調査から重要度が低下した一方で、歴史・文化や芸術に関する項目の満足度が上昇した。

「(38)青少年の健全育成」では、少子化やライフスタイルの多様化といった背景のもと、青少年の非行や問題行動が減少したことなどから、重要度が低下したと考えられる。

「(39)歴史的資源の保存と活用」では、「地域の宝」認定制度の取組などを通じて、市民の歴史・文化的資源に対する関心が高まったことで、満足度が上昇したと考えられる。

「(41)国際的な文化交流の推進」では、地域のイベントや学校活動など、身近な場所で国際的な文化交流を行う機会が増加していることから、重要度が低下したと考えられる。



■ 変化が大きい項目

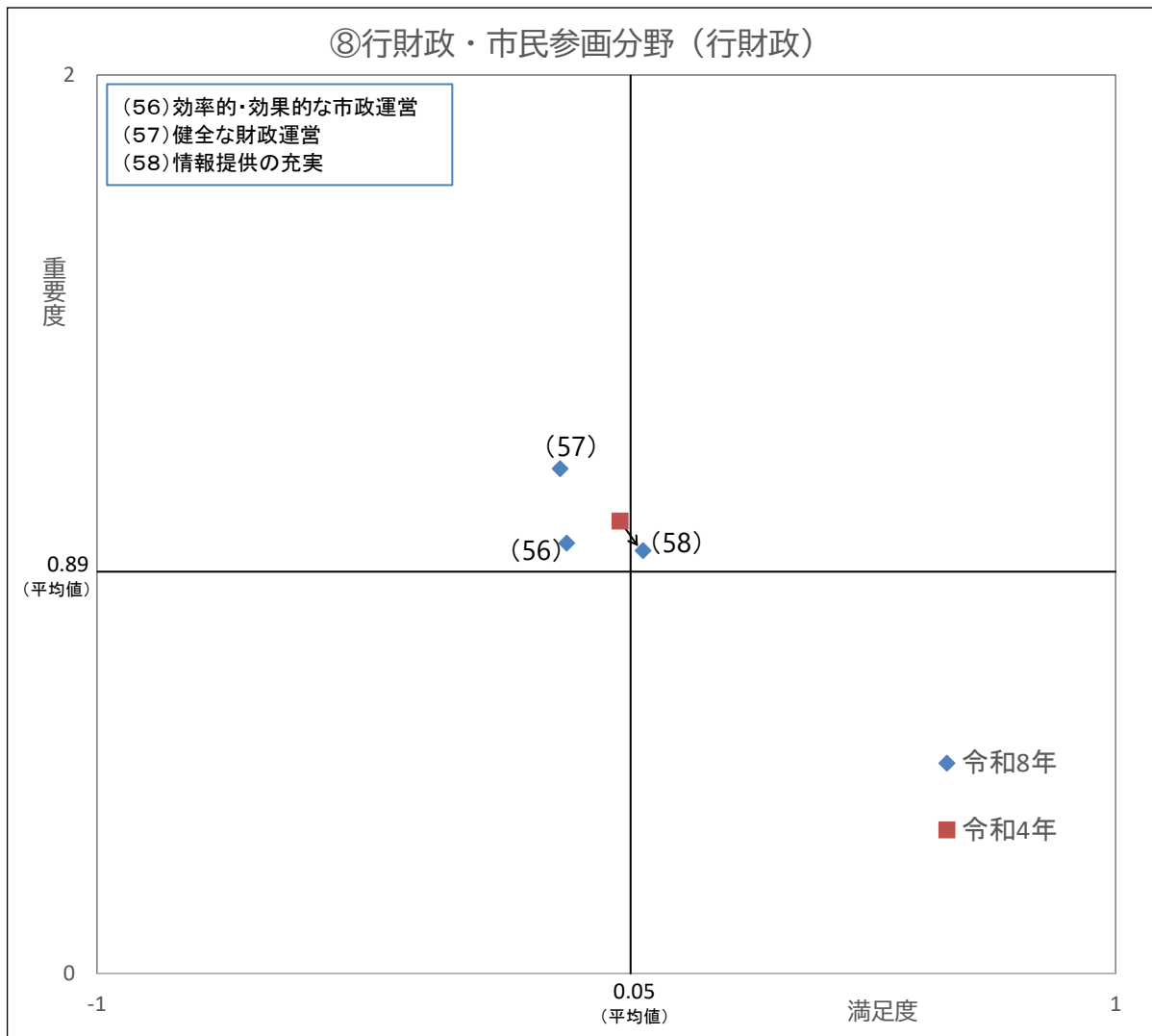
満足度	重要度
○上昇…(53)直江津港の利用促進 ●低下…(44)主要幹線道路の整備、(45)公共交通の利便性向上、(48)水道水の供給	○上昇…(48)水道水の供給、(49)生活排水の処理対策、(50)市街地の形成、 ●低下…(43)身近な生活道路の整備、(53)直江津港の利用促進

多くの項目で前回調査から満足度が低下した。

「(45)公共交通の利便性向上」では、ダイヤ改正やバス路線の再編等による減便、待ち時間の増加等を受け、特に公共交通に頼らざるを得ない年代からの満足度が低下したと考えられる。

「(48)水道水の供給」は、全項目の中でも満足度・重要度ともに高い水準であるが、R7年の記録的な渇水に伴う市民への節水要請や、老朽化した水道管からの漏水事故等の全国的な発生・報道などから、前回調査からの満足度の低下及び重要度の上昇につながったと考えられる。

「(53)直江津港の利用促進」では、R6年の「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録やR7年のクルーズ客船の寄港を契機として市民の関心が高まった中、小木直江津航路の利用促進やポートセールスの取組が一定程度評価されたことにより、満足度が上昇したものと考えられる。

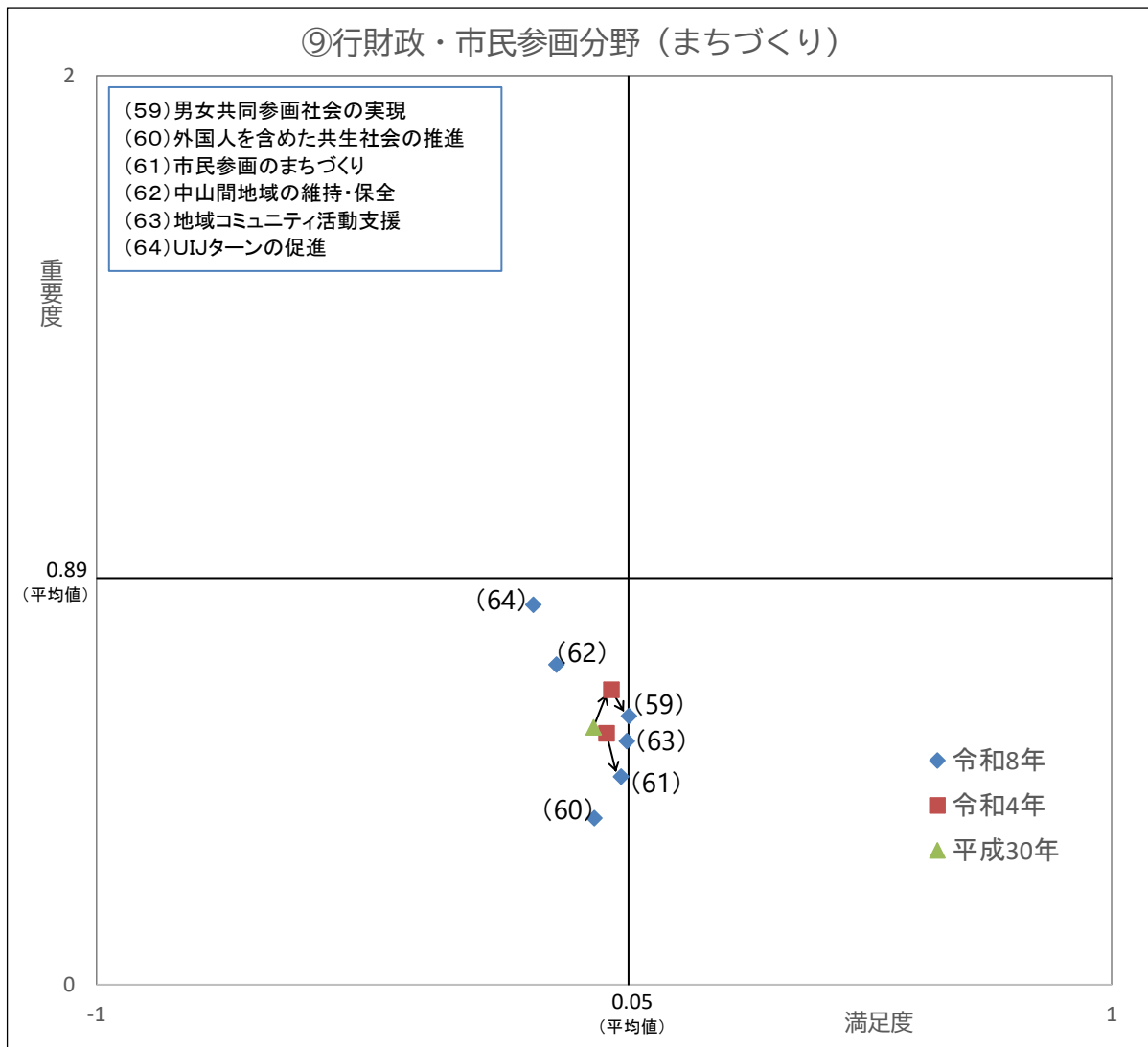


■ 変化が大きい項目

満足度	重要度
—	● 低下…(58)情報提供の充実

全ての項目で前回調査から満足度が上昇し、重要度が低下した。

「(58)情報提供の充実」では、SNS など多様な発信媒体の普及に伴い、市民にとって、様々な情報の入手が容易となったことで、行政からの一方向的な情報提供の重要度が低下したと考えられる。



■ 変化が大きい項目

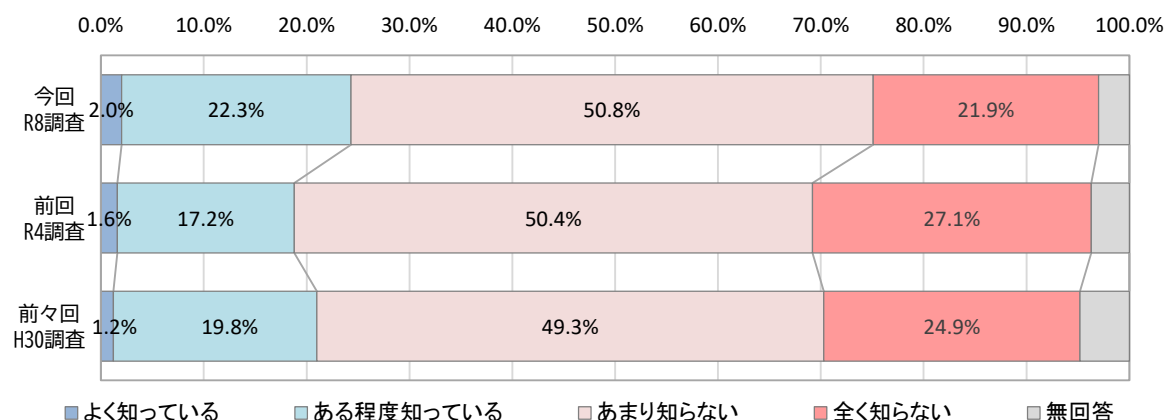
満足度	重要度
—	●低下…(59)男女共同参画社会の実現、 (61)市民参画のまちづくり

全ての項目で前回調査から重要度が低下した。

「(59)男女共同参画社会の実現」では、意識啓発の取組や社会全体の価値観の変化に加え、育児休業制度の拡充や女性管理職の登用拡大、ハラスメント対策等の取組が、市民の男女共同参画に対する理解につながり、満足度が上昇した一方で、相対的に重要度が低下したと考えられる。

「(61)市民参画のまちづくり」では、各種委員会における公募市民の登用やパブリックコメントなどの市民参画が一定程度進んだこと、また、物価高騰の影響等から、市民の日常生活に直結する取組への関心が高まったことなどから、満足度が上昇した一方で、相対的に重要度が低下したと考えられる。

2-3 【問2(65)】 地域自治区制度に対する認知度



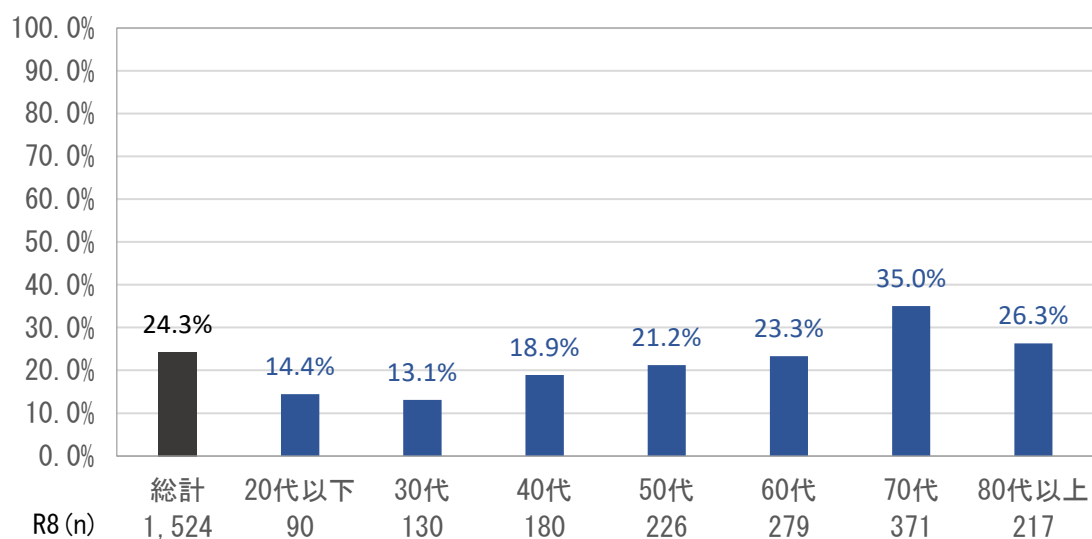
地域自治区制度の認知度(「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計)は前回調査から上昇した。

地域自治区制度の仕組みの強化に向けて検討を進めてきたことから、議会等を通じて市民にも認知されてきたと考えられる。

クロス集計

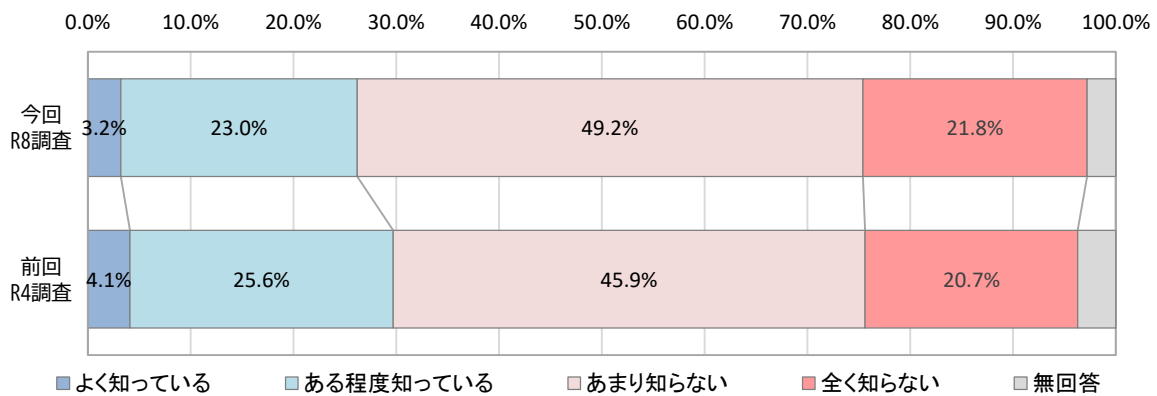
<認知度>

年代別



年代別では20代以下と30代が低い。

2-4 【問2(66)】 地域協議会に対する認知度

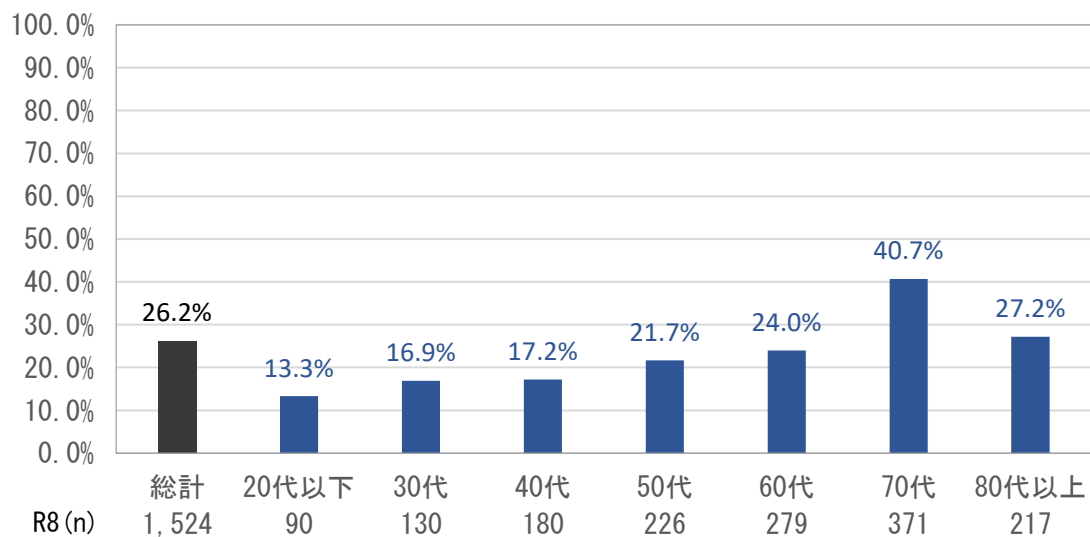


地域協議会の認知度(「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計)は前回調査から低下した。

地域協議会は、市民生活への直接的な影響が実感しにくいことに加え、「地域独自の予算事業」により、地域協議会と住民との関わりが少なくなったことなどから、認知度が低下したものと考えられる。

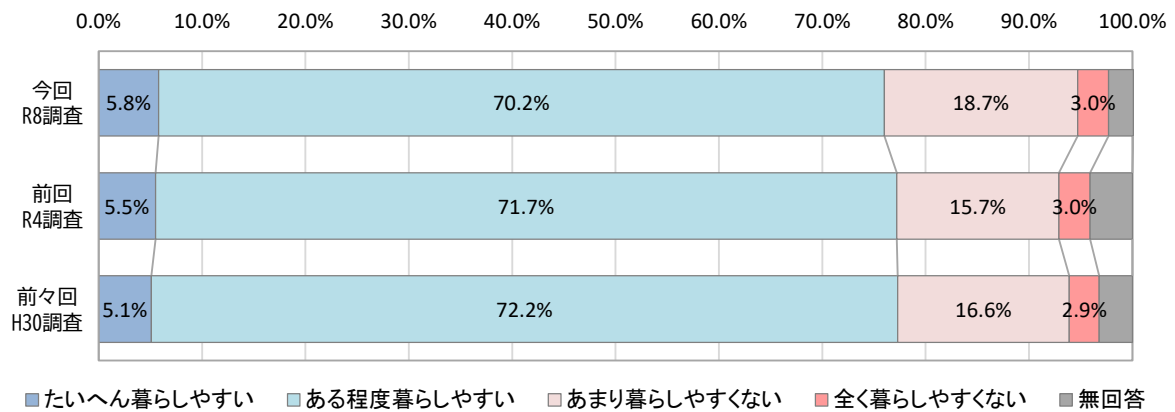
クロス集計

年代別



20代以下から40代で低く、70代で高い。

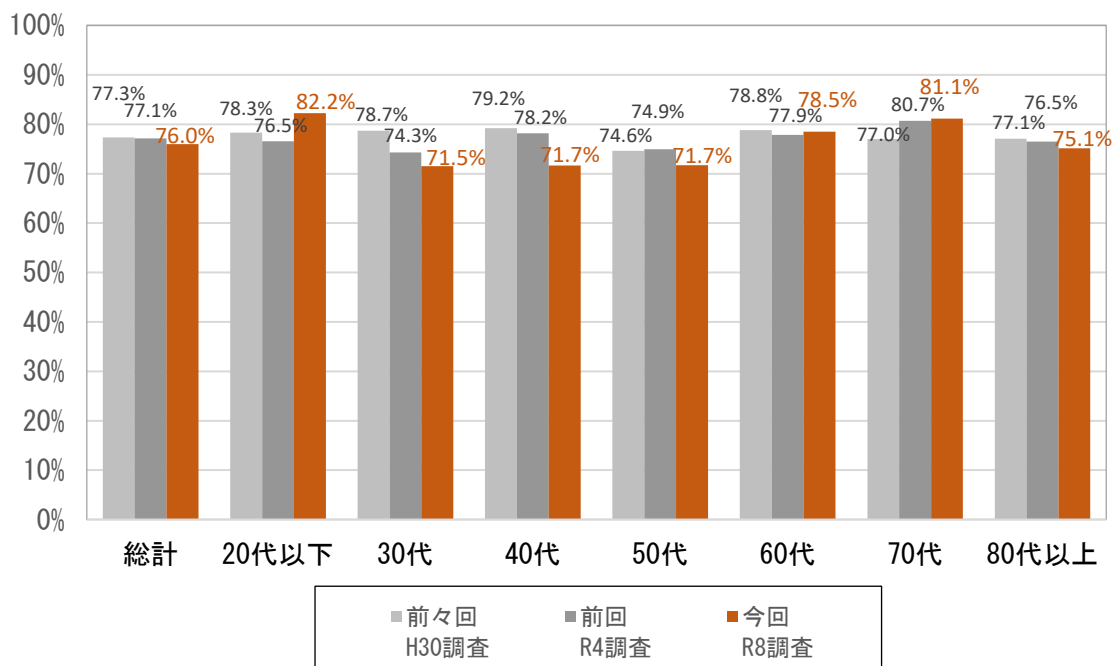
2-5 【問3(1)】暮らしやすさ



暮らしやすい(「たいへん暮らしやすい」、「ある程度暮らしやすい」の合計)と感じている市民は 76.0%となっており、前回調査から大きな変化は見られなかった。

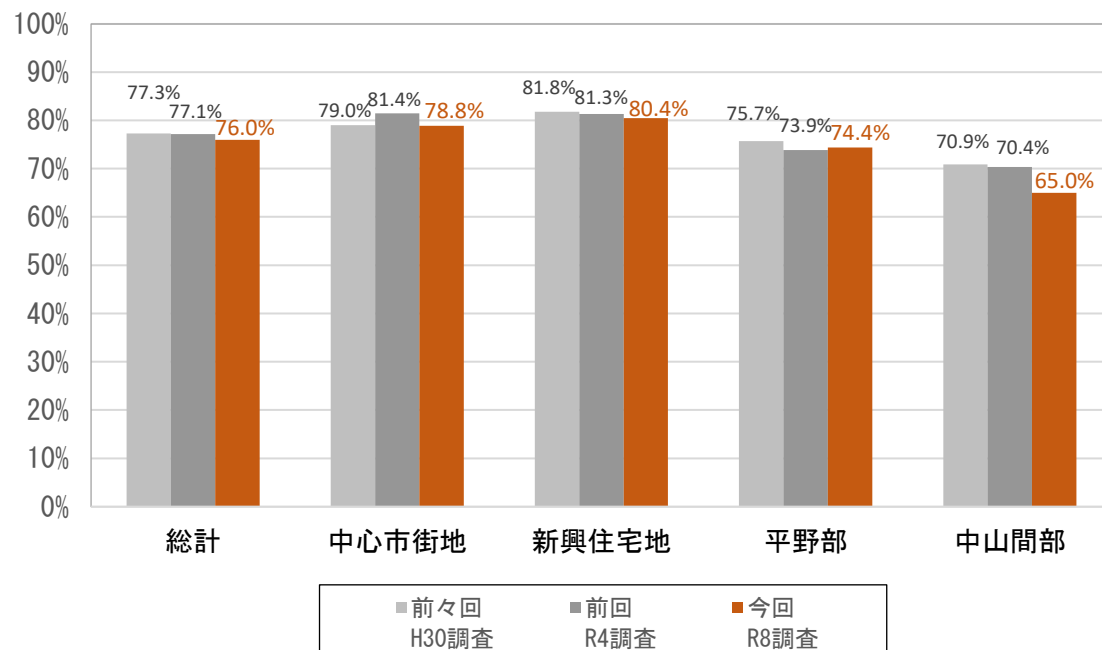
クロス集計

年代別



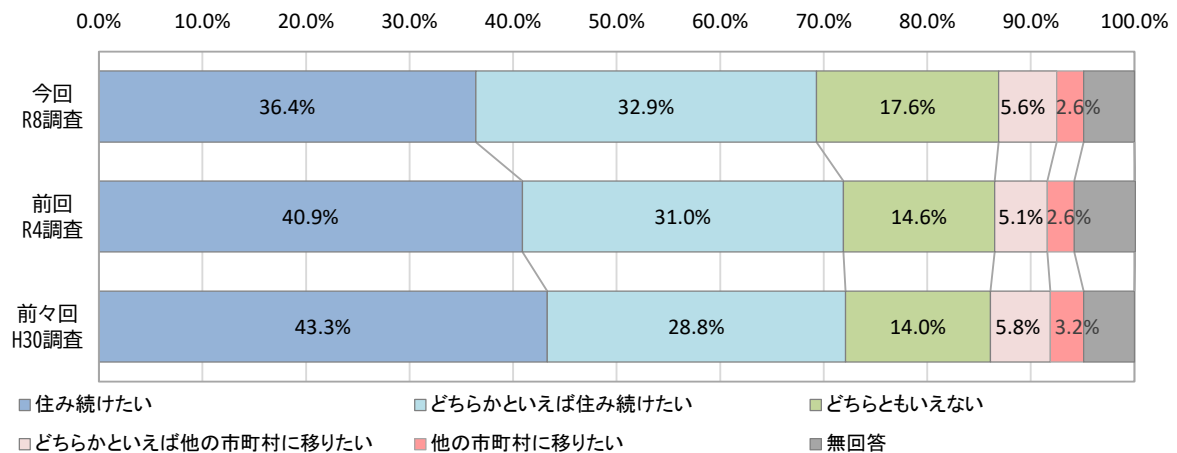
「たいへん暮らしやすい」または「ある程度暮らしやすい」と回答した市民の割合は、20代以下と60代、70代で高い。

居住地域別



「たいへん暮らしやすい」または「ある程度暮らしやすい」と回答した市民の割合は、中山間部で低い。

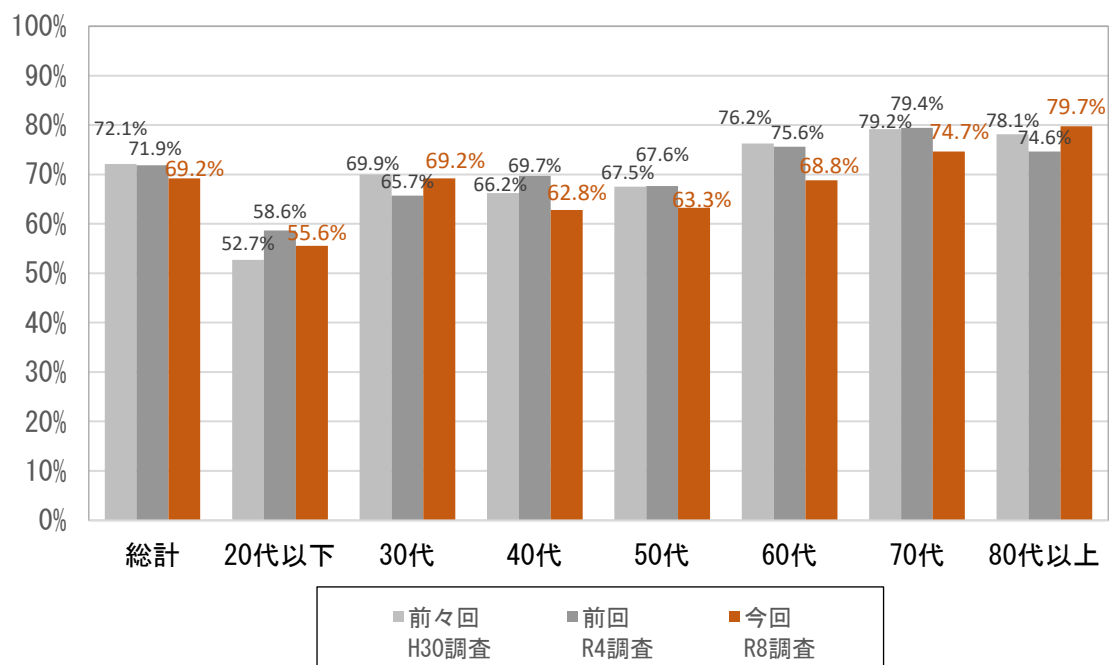
2-6 【問3(2)】 上越市に住み続ける意向



「住みたい」と感じている市民は 36.4%、「どちらかといえば住みたい」と感じている市民との合計は 69.3%となっており、前回調査からやや低下した。

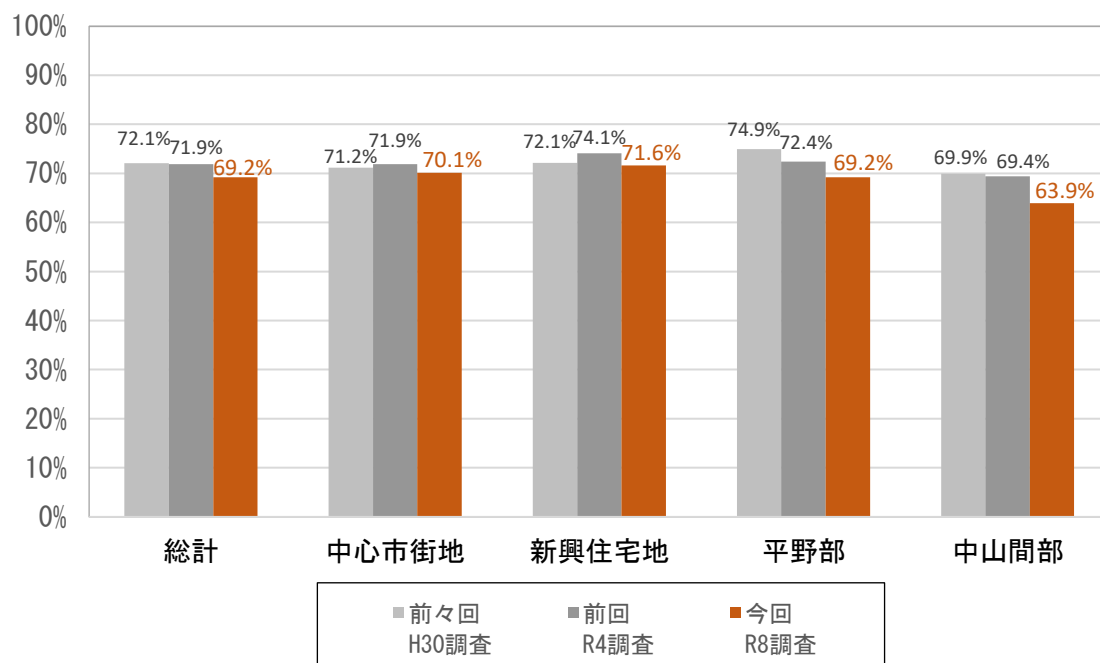
クロス集計

年代別



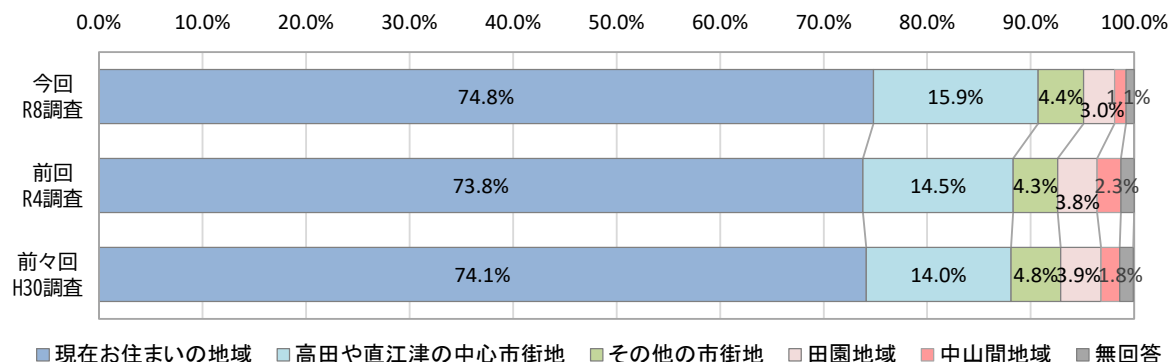
「住みたい」または「どちらかといえば住みたい」と回答した市民の割合は、20代以下で低い。

居住地域別



「住み続けたい」または「どちらかといえば住み続けたい」と回答した市民の割合は、中山間部でやや低い。

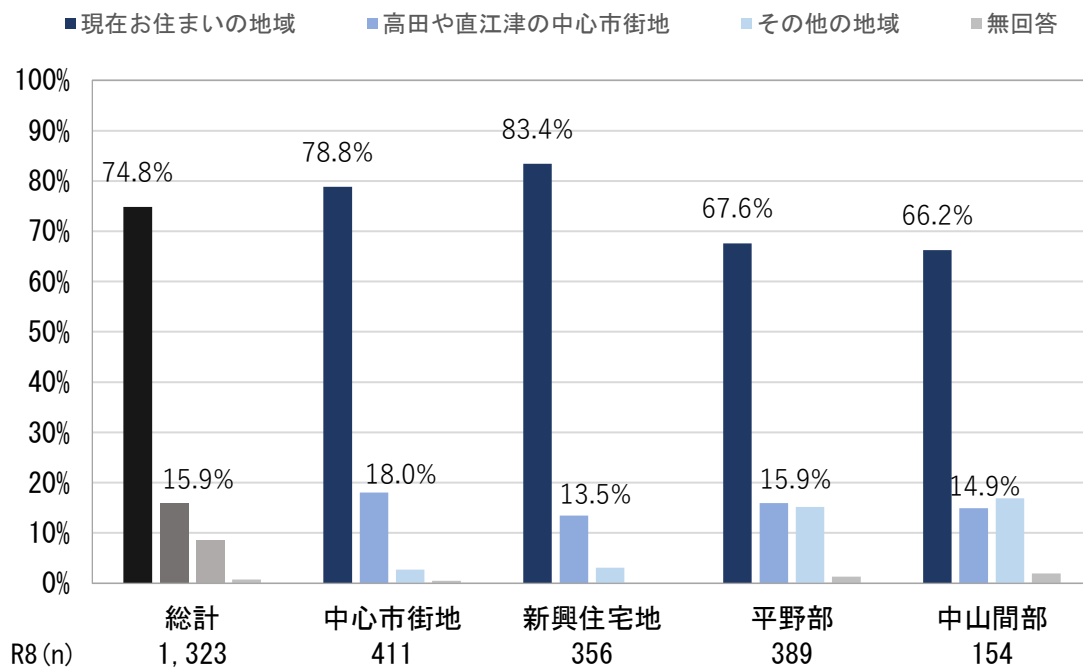
2-7 【問3(3)①】 住みたい地域（問3(2)で「住みたい」「どちらかといえば住みたい」「どちらともいえない」のいずれかを選択した場合のみ記入）



住みたい地域は、「現在お住まいの地域」が 7 割以上となっており、前回調査から大きな変化は見られなかった。

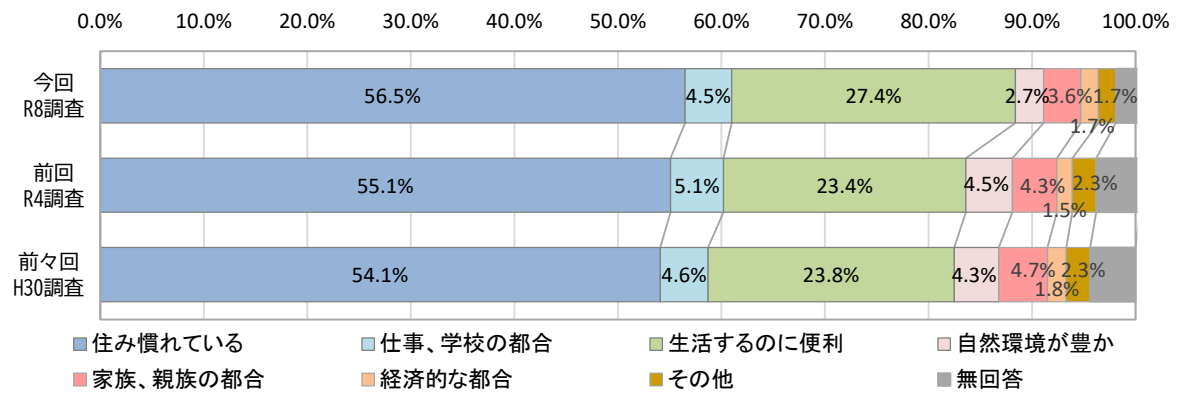
クロス集計

居住地域別



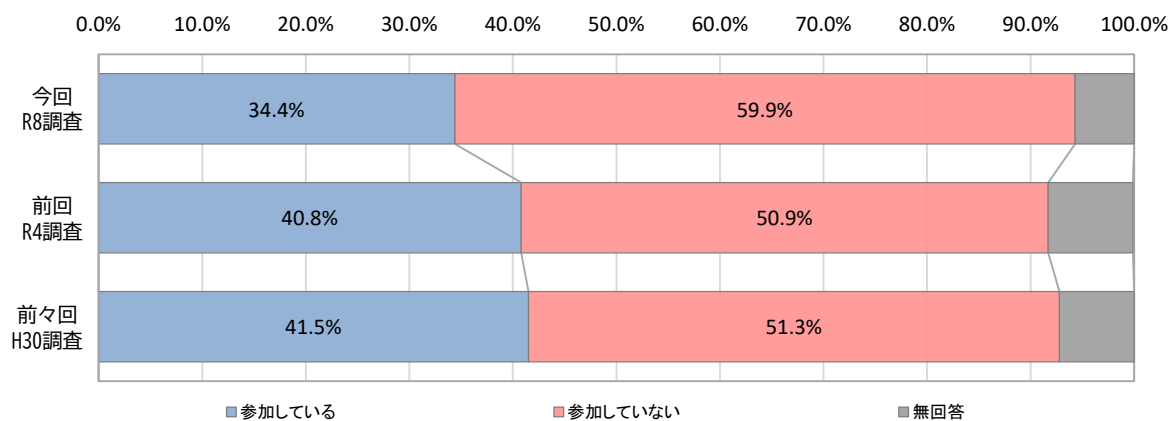
「現在お住まいの地域」に住みたい割合は、新興住宅地で高く、平野部と中山間部で低い。

2-8 【問3(3)②】 住みたい地域を選んだ理由



「住み慣れている」が最も多く、5 割以上となっており、前回調査から大きな変化は見られなかった。

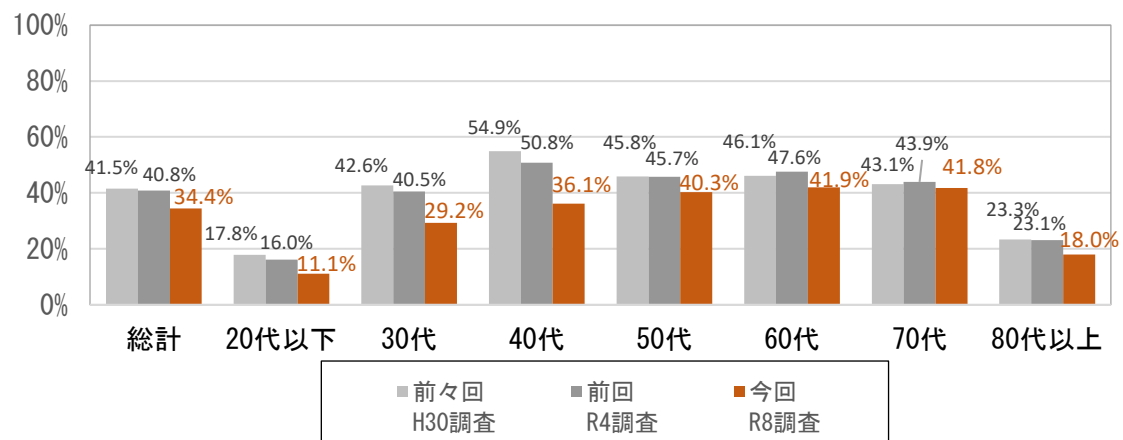
2-9 【問4】 地域活動や市民活動への参加



地域活動や市民活動に参加している市民は 34.4%となっており、前回調査から減少した。

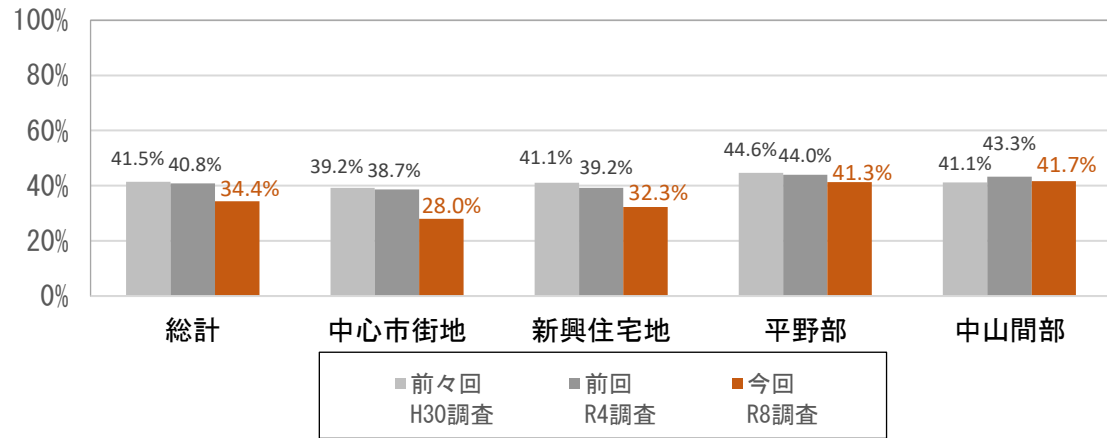
クロス集計

年代別



「参加している」と回答した市民の割合は、20代以下で著しく低い。

居住地域別



「参加している」と回答した市民の割合は、平野部と中山間部で高い。

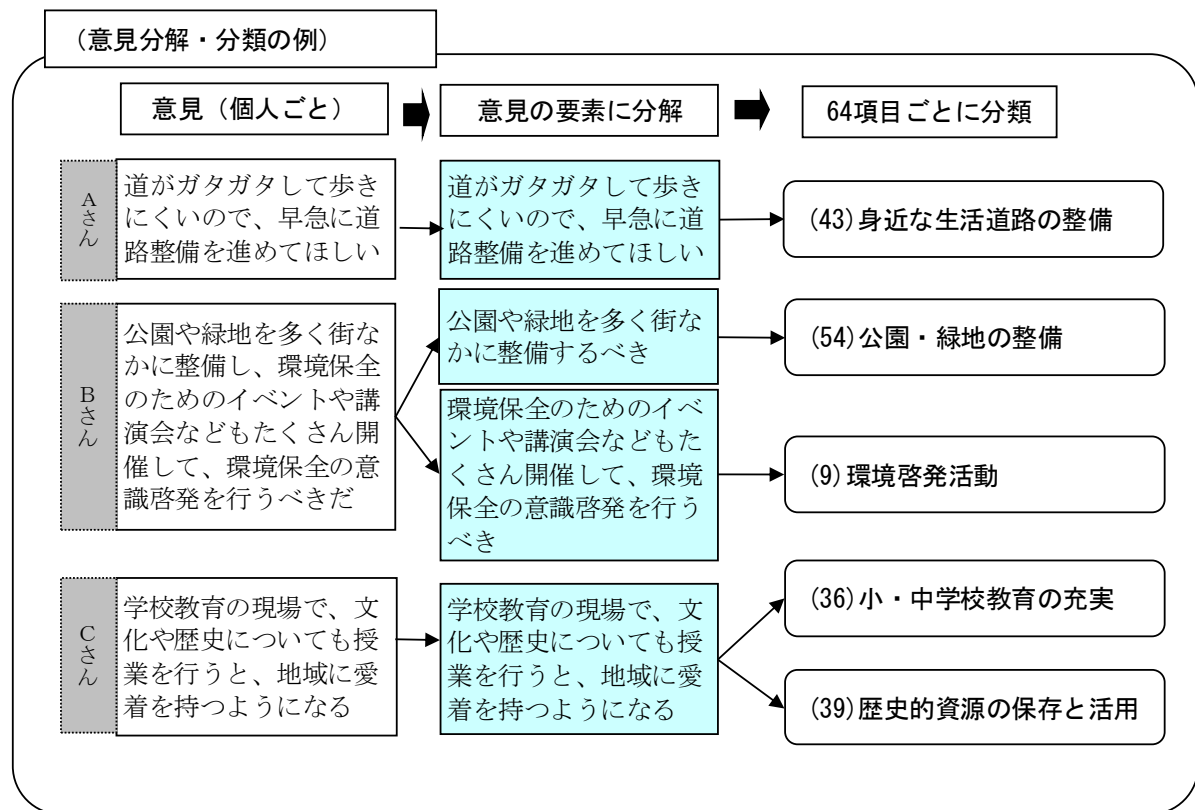
2-10 【問5】 今後の市政やまちづくりについての意見

今後の市政やまちづくりについての意見を自由記述で回答いただいた。

2-10-1 分類の方法

回答いただいた意見を以下のように分類して整理した。

- ・今後の市政やまちづくりについての意見を、問 2「各分野における取組についての満足度、重要度」で設定した 64 項目により分類した。
- ・問 2 で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。

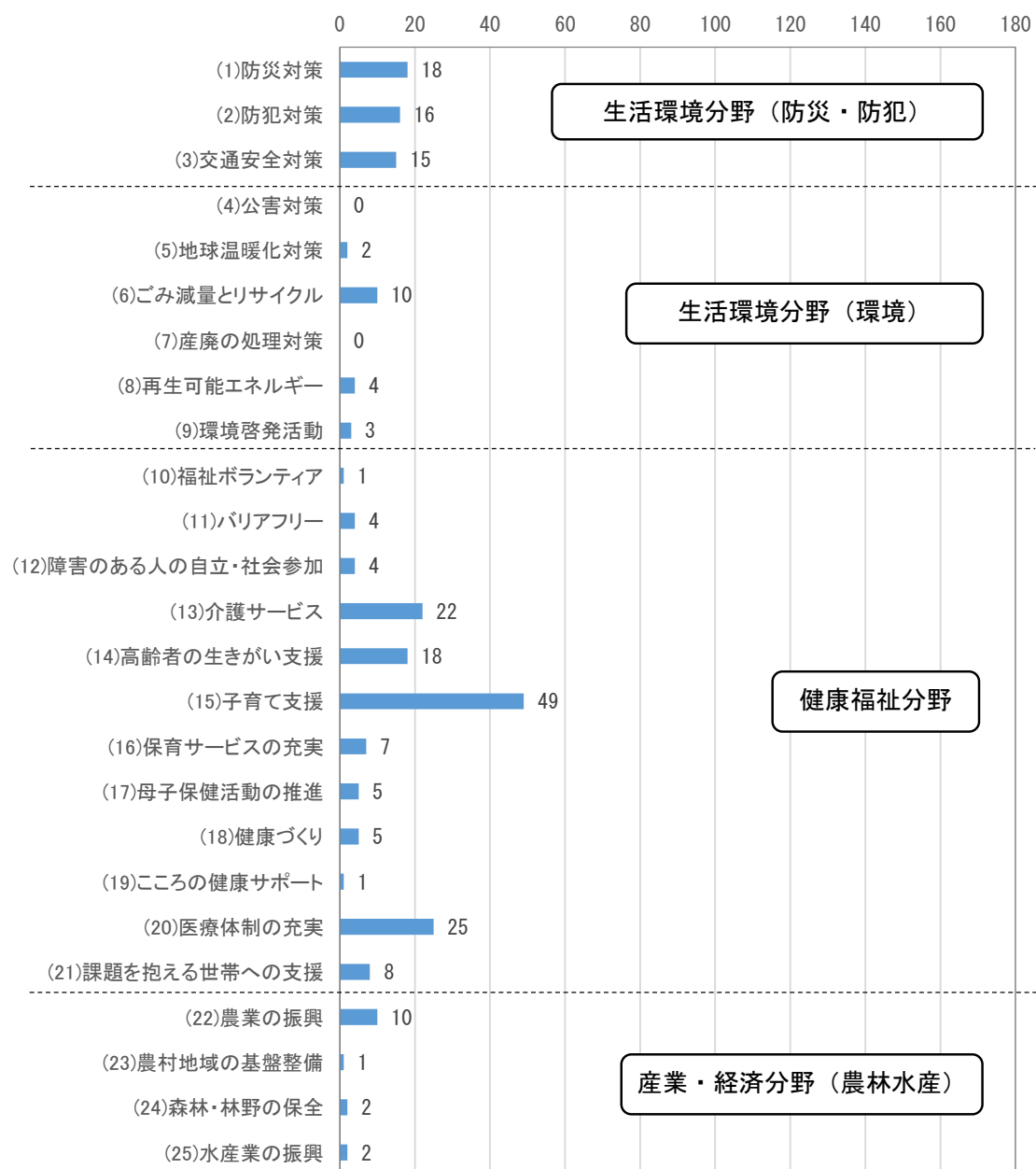


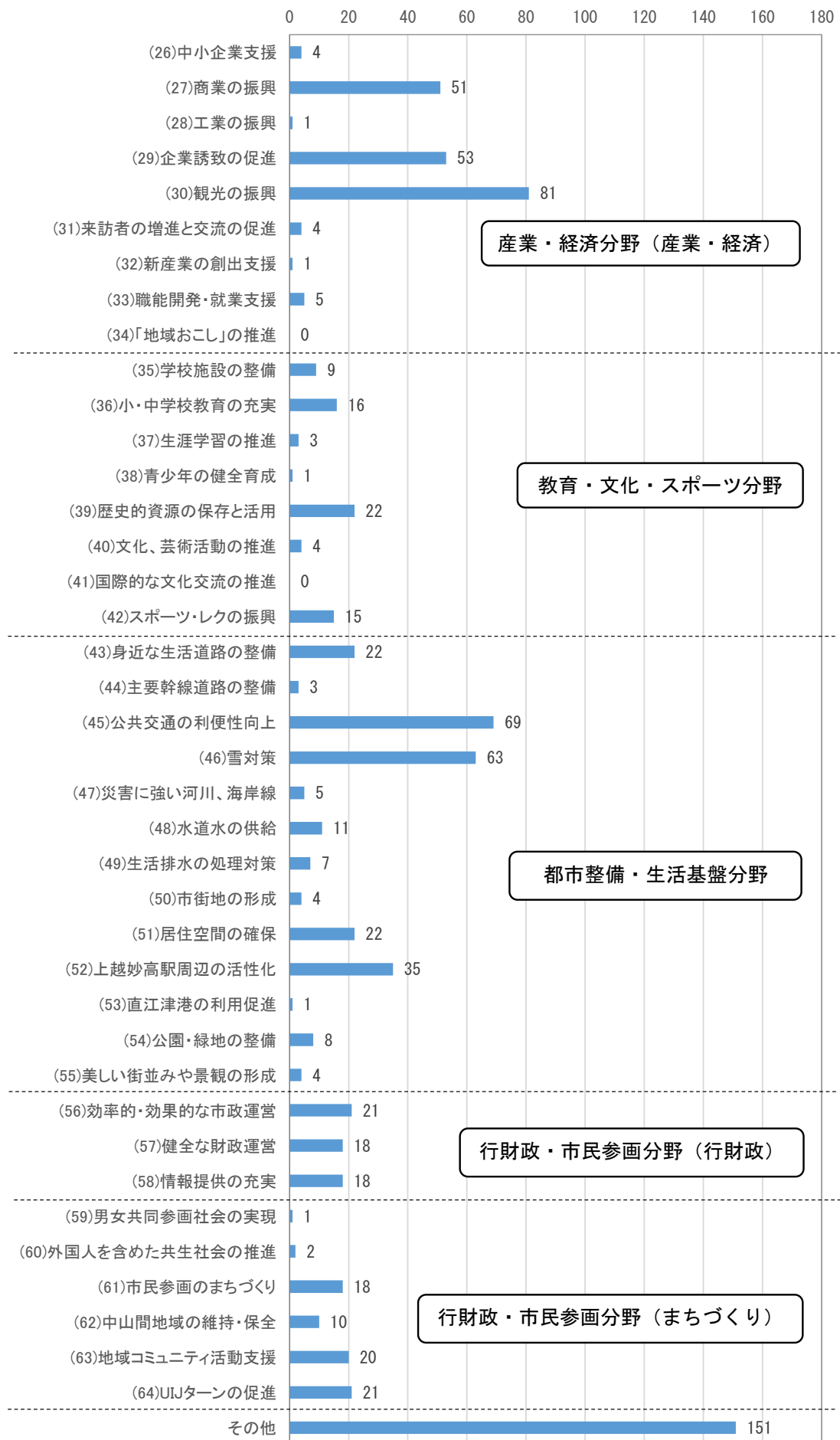
2-10-2 集計結果

今後の市政やまちづくりについての自由記述意見を分野別にみると、都市整備・生活基盤分野に対する意見が最も多く、次いで産業・経済分野となっている。

都市整備・生活基盤分野では、「公共交通の利便性向上」、「雪対策」、「上越妙高駅の活性化」に関する意見が多く、産業・経済分野では、「観光の振興」、「企業誘致の促進」、「商業の振興」に関する意見が多い。

有効回答者数	自由意見回答者数	自由意見回答者率	意見数
1,524	604	39.6%	1,036





各分野に関して意見数が多かった項目と、それぞれの意見（抜粋）は次のとおりである。各項目の（ ）内の件数は、寄せられた意見の数。

（１）「生活環境分野（防災・防犯）」に関する意見

【防災対策（18 件）】

■ 全般的な災害対策の強化や、災害発生時の避難に関する意見が寄せられた。

○国内のあちこちで地震が起き、頻発している。比較的災害の少ない地域ではあるが、地震だけは防ぎようがない。地震被害への備えを十分にしていける必要がある。例えばトイレカーやダンボールベッド、テントなどの備えが十分あることを望む。（70 代女性、平野部）

○災害に強いまちづくりをしてほしい。市民の意識を高める啓発や情報発信を市として今後も行ってもらいたい。（40 代女性、平野部）

【防犯対策（16 件）】

■ 街灯の設置など、全般的な防犯対策の強化に関する意見が寄せられた。

○夜間の道路が暗いので、街灯を増やしてほしい。（30 代女性、平野部）

○小・中学校や高校の周囲に防犯カメラを設置してほしい。（70 代男性、平野部）

【交通安全対策（15 件）】

■ 高齢者の運転や通学路の安全対策に関する意見が寄せられた。

○公共交通より自家用車の方が便利のため、高齢者の運転問題が今後もっと問題視されると思う。（30 代女性、平野部）

○子ども達が登下校時に横断する道路に信号を設置してほしい。いつ事故が起きてもおかしくない。信号のない横断歩道で停まらない車が多い。（30 代女性、平野部）

（２）「生活環境分野（環境）」に関する意見

【ごみ減量とリサイクル（10 件）】

■ ごみの分別や回収、リサイクルに関する意見が寄せられた。

○ゴミの分別を見直してほしい。（40代男性、平野部）

○毎日ゴミを回収してほしい。特にプラスチックの回収日を増やしてほしい。（30代男性、平野部）

（３）「健康福祉分野」に関する意見

【介護サービス（22件）】

■ 高齢者への全般的な介護・支援に関する意見や、介護サービスの充実を求める意見が多く寄せられた。

○高齢者の補助が不足している。高齢者世帯の援助を考えてほしい。通院手段など本当に困っている。（50代女性、新興住宅地）

○高齢者の医療負担の軽減（介護サービスや福祉施設などの利用費用の軽減も含む）を優先した方がいいのではないか。（30代男性、新興住宅地）

【高齢者の生きがい支援（18件）】

■ 高齢者の生きがいづくりや社会参画の支援を求める意見が寄せられた。

○65歳位からの高齢者の社会参加の窓口がもっとあると良いと思う。料理教室や、手芸教室、ボランティアなど、家にこもらず外へ出るきっかけになるような事があればいい。（女性（年代未回答）、新興住宅地）

○介護を必要としないまちづくりで気軽に参加できる運動施設、クラブなどを充実させてほしい。（70代女性、新興住宅地）

【子育て支援（49件）】

■ 子どもが遊べる施設の整備や、子育て支援の充実を求める意見が多く寄せられた。

○人混みがなく、子育てができる点はやはり都会よりも良いと感じる。ただ、親世代の働く場所が限られ、子どもに提供できる教育が限られることがあり、上越市で子育てをする選択がもてないように思う。（30代女性、中心市街地）

○子どもが遊べる全天候型施設を充実させてほしい。（30代男性、平野部）

○人口流出を止めるための魅力的な政策を期待する。そのために、子育て世代へのサービスの拡充や改善が必要だと思う。（40代女性、平野部）

【医療体制の充実（25 件）】

- 地域医療体制の維持や充実に関する意見が多く寄せられた。

○上越地域医療センター病院の早期改修を願うとともに、医療関係職員の拡充を望む。
（70 代男性、平野部）

○医療再編は急いだ方がいいと思う。人口と比較して一般急性期病床が多いのではないかな。
多くの病院が共倒れになれば困るのは市民である。集約し、赤字部分を公費で補えるよう縮小した方がいいと思う。（40 代女性、中心市街地）

（４）「産業・経済分野（農林水産）」に関する意見

【農業の振興（10 件）】

- 農業の後継者不足に関する意見などが寄せられた。

○稲作農業の行く末に不安がある。今後、生産者が安心して稲作を継続できる適正価格を、消費者と生産者の問題として考えてもらいたい。（70 代男性、平野部）

○耕作放棄地が目につく。これから 10 年で畑を受け継ぐ人がどれだけいるか。大胆な対策が必要と思う。（女性（年代未記入）、平野部）

（５）「産業・経済分野（産業・経済）」に関する意見

【商業の振興（51 件）】

- 商店街の賑わいのほか、大型商業施設の整備を望む意見が多く寄せられた。

○上越市は自然豊かで、高田の商店街や雁木通りもリノベした店が増えて、とても生活が楽しくなっている。若者は少ないかもしれないが、高齢者になっても住みつけたい所である。（30 代女性、新興住宅地）

【企業誘致の促進（53 件）】

- 若者の働く場づくりを求める意見が多く寄せられた。

○子どもが大学に行ってしまうと働き口がなく帰って来なくなってしまう。もっと企業誘致に力を入れてもらいたい。（50 代女性、平野部）

○企業誘致により、若い人の働き口を確保する必要がある。上越市の人口減少を少しでもくい止めるため、市政の取組をお願いしたい。（50代男性、中心市街地）

○メタンハイドレート産業の産業化、商業化により、企業誘致などを期待している。（60代男性、中山間部）

【観光の振興（81件）】

■観光PR・宣伝に関する意見が多く、観光資源として上杉謙信や春日山など歴史的資源を挙げるものが多かった。

○歴史の多い上越市なのでもっと観光に力を入れてほしい。春日山神社をもっと観光向けに整えてほしい（道の駅やお土産施設など）。（30代女性、新興住宅地）

○インバウンド対応などしっかりしてほしい。上越市は行政による魅力の発信が弱い。もっと観光に力を入れるべき。自力で盛り上げられる力をつけてほしい。（40代女性、中心市街地）

○上越市のいい素材を活かしていないように感じる。謙信と桜だけでは弱い。例えば高田の雁木の街並みはもっと観光に活用してほしい。（50代男性、中心市街地）

○他の市町村に比べて観光資源が全く生かされていない。看板等の作成やPRを増やし活性化につなげてほしい。（30代男性、中心市街地）

（6）「教育・文化・スポーツ分野」に関する意見

【小・中学校教育の充実（16件）】

■教職員の確保や全般的な教育の充実を求める意見が寄せられた。

○小中学校の支援学級職員が少なすぎると感じていた。いろんな特性を持つ子どもたちが安心して過ごせる学校作りをしてほしい。（50代女性、中心市街地）

○子どもたちの教育を充実させるためには、人が大事。教育にお金をかけてほしい。（40代男性、新興住宅地）

【歴史的資源の保存と活用（22件）】

■城下町の歴史や雁木に関する意見のほか、史跡などの整備を求める意見が多く寄せられた。

○高田駅周辺の雁木通りを活用して、観光客を呼べる様な取り組みができるといい。（60代女性、平野部）

○上越市は春日山城、福島城、高田城と古い時代に栄えていた時代があった。日本スキー発祥の地でもあり、多くの歴史的な遺跡があるので、その遺跡を活かして観光地としてPR し、県外及び国外から観光客を集め人的交流がなされるまちづくりを目指してほしい。（80 代以上男性、中心市街地）

【スポーツ・レクの推進（15 件）】

■ 各種競技場等の整備を求める意見が多く寄せられた。

○中学校の部活が制限される中、中高生が自分で通う事ができるような施設や練習する場所等が増えていけば良いと思う。運動は、どの世代においても健康を保つための大切なことなので、体を動かす事ができる環境が増えていけば良いと思う。（40 代女性、中心市街地）

○スポーツ施設がないので集客が望めない。野球場、サッカー場、ラグビー場、その他プロ仕様のスタジアムがほしい。（50 代男性、中心市街地）

（７）「都市整備・生活基盤分野」に関する意見

【身近な生活道路の整備（22 件）】

■ 通学路などの歩道の整備や日常の生活道路の維持管理など、安全性の確保を求める意見が多く寄せられた。

○道路等の生活習慣に必要な事を整備してほしい。（50 代男性、平野部）

○歩道の整備が不十分な道路が多く、通勤時間帯では歩行者と車の距離が近く速度も速いため危険な場面を何度も見かける。早めの整備が必要かと思う。（40 代男性、平野部）

【公共交通の利便性向上（69 件）】

■ 運転免許返納後の交通手段の確保や支援のほか、公共交通全般の充実を求める意見が多く寄せられた。

○免許返納後の高齢者が、外出に不便を感じないような取組を望む。田舎はバスや電車の本数が少なく不便である。タクシーをもっと安く乗れるようにするなど、年寄りの免許返納を推進してほしい。（40 代男性、平野部）

○長野や富山へのアクセスは新幹線により利便性が良くなったが、新潟市、長岡市へのアクセスが不便である。（30 代女性、平野部）

○市内循環ミニバスが定期的に運行されると免許返納した時点ですごく助かると思われる。（70代女性、中心市街地）

【雪対策（63件）】

■ 丁寧・迅速な除雪を求める声が多いほか、除雪業界の人員確保や高齢者世帯への除雪支援に関する意見などが寄せられた。

○雪が大量に降ると除雪が間に合わず、朝早く仕事に出かけなければならない時には、県道も通れない。除雪体制を整えてほしい。（60代男性、平野部）

○雪対策をお願いしたい。除雪業界は人不足と聞いている。県外から来た私には、雪は地元以上に嫌なものである。除雪業界への支援を希望する。（60代女性、新興住宅地）

○全ての高齢者世帯に除雪費を助成してほしい。（70代男性、平野部）

【水道水の供給（11件）】

■ 水道水の安定供給や料金に関する意見などが寄せられた。

○去年の水不足の際に、上越市から給水や無料の風呂の利用がありとても助かった。いざ生活の不自由などがあった際に、なるべく困らないように対応してもらえると嬉しい。（50代女性、新興住宅地）

○水道料金を値下げしてほしい。（30代男性、平野部）

【居住空間の確保（22件）】

■ 空き家対策や利活用などに関する意見が多く寄せられた。

○街の景観、災害時のためにも空き家の規制を強化してほしい。（60代女性、新興住宅地）

○空き家、古民家の再生により地域を活性化してほしい。（50代女性、新興住宅地）

【上越妙高駅周辺の活性化（35件）】

■ 上越妙高駅周辺に大型商業施設の整備を望む意見が多いほか、住民の日用品の買い物先の整備を求める意見が寄せられた。

○上越妙高駅周辺にスーパーを誘致してほしい。上越妙高駅周辺はスーパー空白地帯であり、一番近いスーパーでも徒歩で約30分かかる。周辺にはマンションやアパート、団地、住宅街があり、スーパーを望む人はたくさんいると思う。（30代女性、平野部）

- 上越妙高駅に大きな施設があれば、観光客の目的にもなるので大型複合商業施設の誘致をお願いしたい。（30代男性、平野部）

（８）「行財政・市民参画分野（行財政）」に関する意見

【効率的・効果的な市政運営（21件）】

- 既存のサービス等の見直しや職員の適正配置のほか、DXによる業務の効率化などに関する意見が寄せられた。

- 「中長期的に何を重点的に行えば上越市の発展につながるのか」の視点を重要にし、限られた予算と人的資源をもっと集中的に活用して市政・まちづくりを進めてほしい。（40代男性、中心市街地）

- DXはぜひ進めていただきたい。他自治体が行っている事例があるなら、積極的に取り入れ、まだ行われていないなら、上越市が全国に先駆けて行い、トップランナーになるくらいのデジタルによる省力化・効率化を図っていただきたい。（50代女性、中心市街地）

- 行政運営が前年踏襲型に偏っており、新しい挑戦が見えにくいと感じる。また、施策全体が高齢者優先の発想に寄り過ぎており、将来世代の投資が弱い印象である。より直接的で実効性のある支援をスタートアップや新規事業に対して強化してほしい。（40代男性、中心市街地）

【健全な財政運営（18件）】

- ふるさと納税による歳入確保や、市の発展に資する取組への予算配分を望む意見が寄せられた

- 財政難なのは理解できるが、必要な部分には機を逸せず支出すること。ふるさと納税を活用するなど、柔軟かつ斬新な発想で財源を確保すること。（50代男性、中心市街地）

【情報提供の充実（18件）】

- 市政情報のより分かりやすい発信や情報の格差の是正を求める意見が寄せられた。

- 区に居住しているが、上越市の端に位置しており、私の感覚として市政、施策が届かないように感じる。広く平等に対応していただきたい。（70代男性、中山間部）

- 市民への情報提供（あらゆる内容）を分かりやすく伝える必要がある。（60代（性別未記入）、新興住宅地）

（９）「行財政・市民参画分野（まちづくり）」に関する意見

【市民参画のまちづくり（18 件）】

■ 市民の声を聞き、市政に反映してほしいという意見が多く寄せられた。

○今後を担う若者達の声拾い上げてほしい。（70 代女性、平野部）

○もっと住民の意見を聞くような機会を増やしてほしい。（80 代（性別未記入）、中心市街地）

【中山間地域の維持・保全（10 件）】

■ 中山間地域へ目を向け、市街地との格差の是正を求める意見が寄せられた。

○中山間地域は条件不利とされているが、高齢になっても住み続けられる環境を整備することで人口流出を防ぐことができる。中心地だけが住みやすいという意識を変えていけるようにしたい。（40 代女性、中山間部）

○自然豊かな上越市であるため、中山間部地域の人が、その地を離れずに暮らせるよう、交通その他について考慮すべきと思う。（70 代男性、中心市街地）

【地域コミュニティ活動支援（20 件）】

■ 町内会の活動や担い手不足に関する意見が寄せられた。

○若い人との交流がない。もう少し若い世帯の人が町内行事に参加することで、地域の活性化につながるのではないか。（60 代女性、平野部）

○町内会の役員をやっているが、後に続く役員のやり手がいらない。（70 代男性、中心市街地）

【UIJ ターンの促進（21 件）】

■ 市内の若者が戻ってきたくるようなまちづくりや、市外からの移住に関する意見が寄せられた。

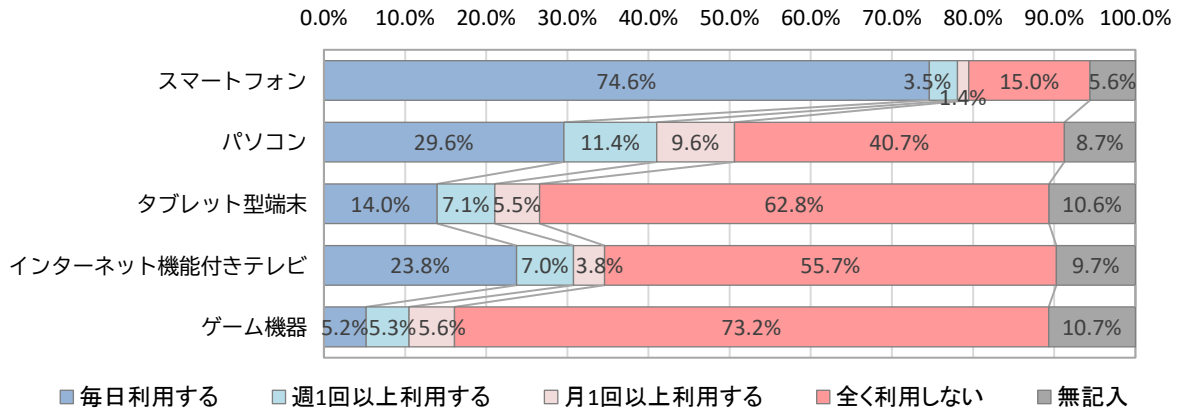
○高校卒業で市外に出て、就職を機に上越市に戻りたいが働きたい場所がなくて戻れない（特に病院関係）といった友人の話を何人か聞いた。自分自身もいずれは出たいと思うこともある。（20 代女性、平野部）

○市外や県外からの移住希望者をもっと応援してやってほしい。
（70 代女性、新興住宅地）

2-11 デジタル化に関する調査について

日常生活において幅広く普及してきたデジタル技術について、今後上越市における活用を検討していくに当たり、市民の利用環境や実態などについてうかがった。

(1) インターネットをどのくらいの頻度で利用していますか。(機器の種類ごと)



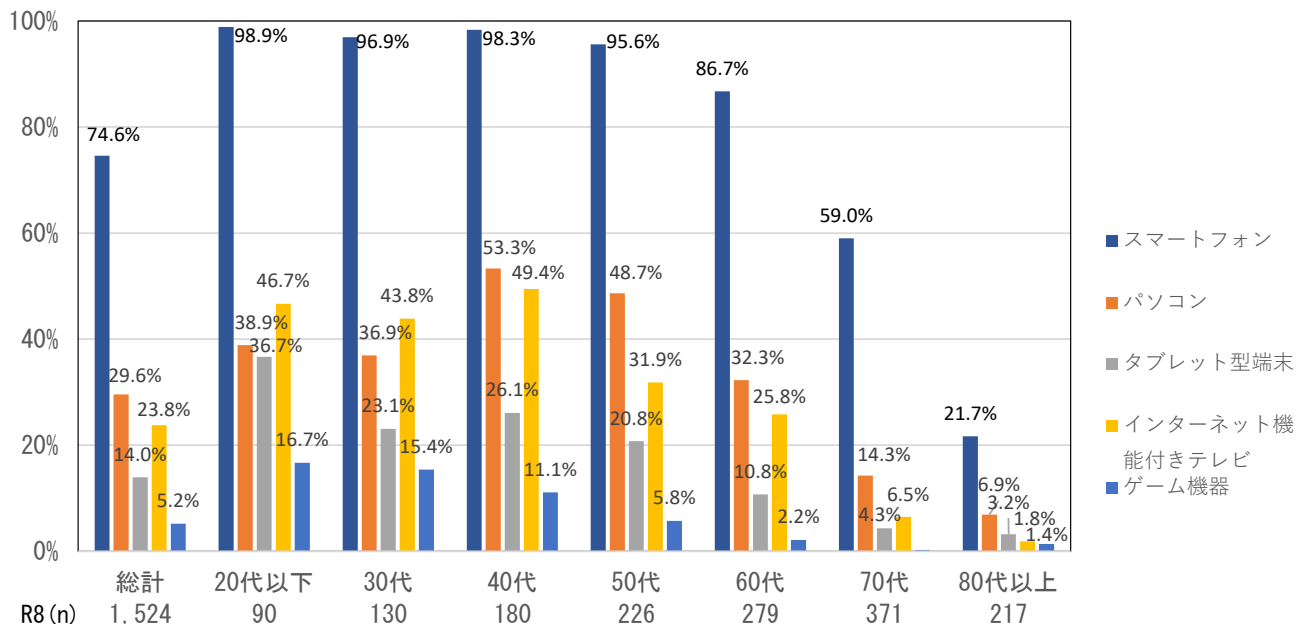
市民の 74.6%が、スマートフォンでインターネットを毎日利用している。
年代別で見ると、20 代以下から 60 代では、9 割前後の市民がスマートフォンでインターネットを毎日利用している一方で、70 代から 80 代以上でその割合は少なくなっている。

※設問以外のインターネットを利用する際の機器として、スマートウォッチ、音楽再生機器などが挙げられた。

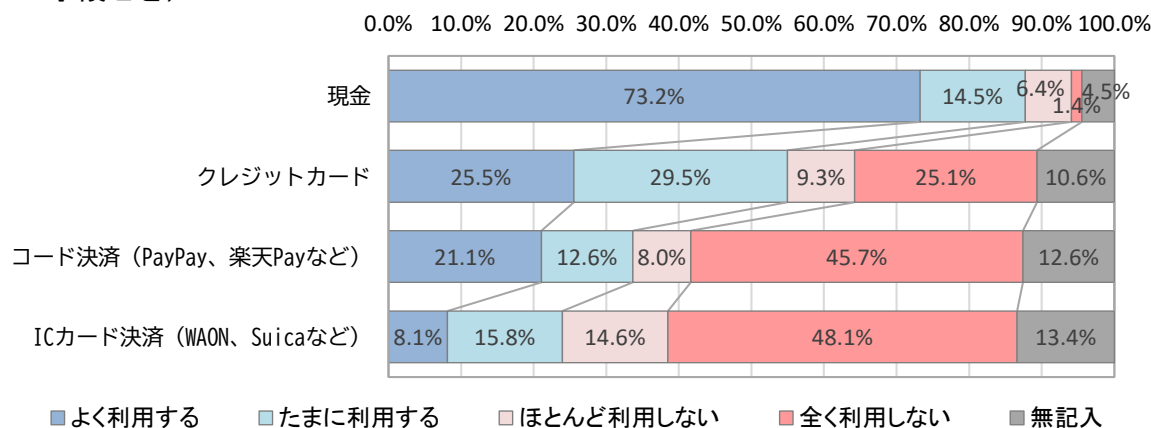
クロス集計

年代別

※「毎日利用する」の割合



(2) 普段の生活での支払手段について、どのくらいの頻度で利用していますか。(支払手段ごと)



市民の 73.2%が、普段の生活での支払で現金をよく利用している。また、市民の 2 割超が、クレジットカードとコード決済をよく利用している。

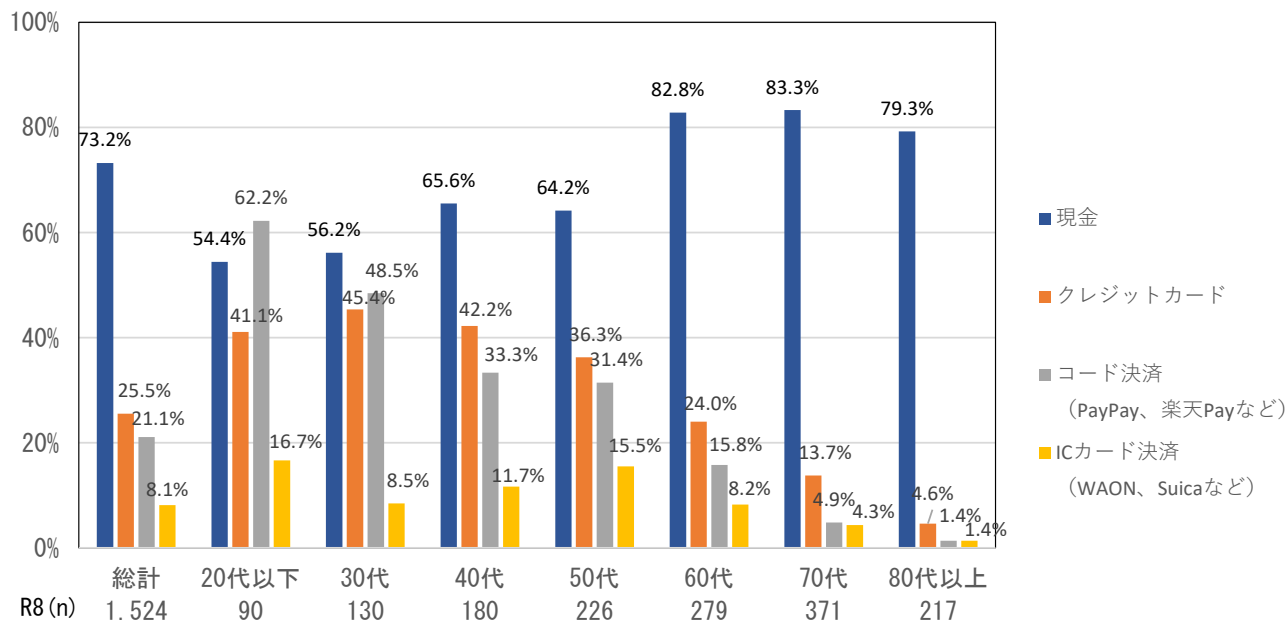
年代別で見ると、20 代以下では、普段の生活でよく利用する支払手段として、コード決済が現金を上回っている。

※設問以外で利用されている支払手段として、商品券、デビットカードなどが挙げられた。

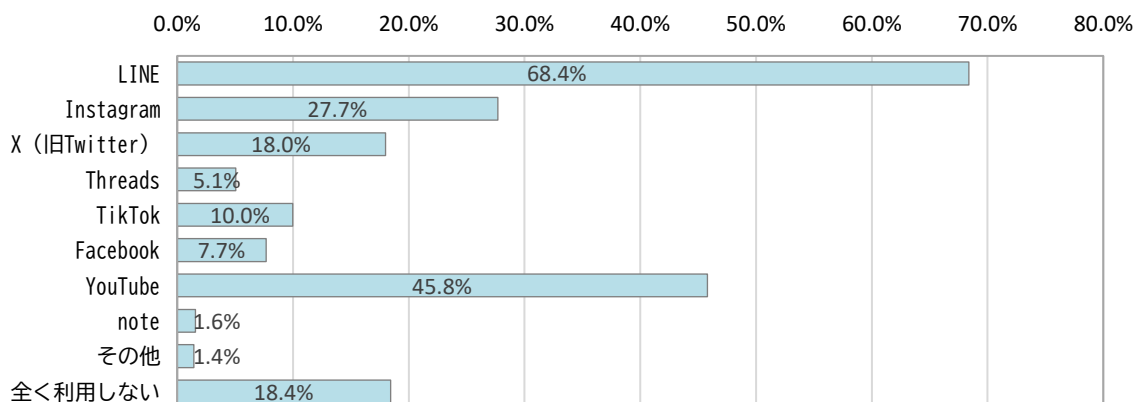
クロス集計

年代別

※「よく利用する」の割合



(3) よく利用する SNS 等の情報配信・共有ツールは何ですか。

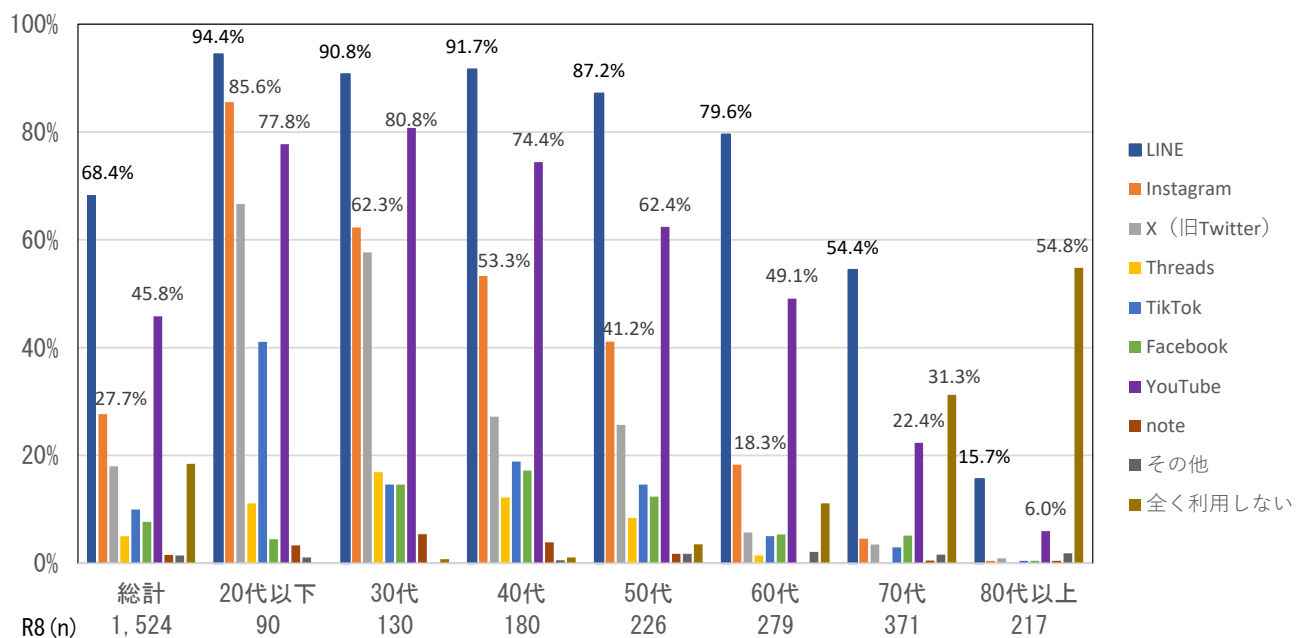


市民の 68.4%が、情報配信・共有ツールとして LINE をよく利用している。次いで、YouTube、Instagram の順によく利用している。

年代別で見ると、20 代以下から 50 代では 9 割前後、60 代でも約 8 割の市民が LINE をよく利用している。

クロス集計

年代別



3 集計表

3-1 回答者属性

(1) 性別

	今回 R8		前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
男性	644	42.3%	991	43.6%	956	44.1%
女性	734	48.2%	1,080	47.6%	1,001	46.2%
無記入	146	9.6%	200	8.8%	211	9.7%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

(2) 年齢

	今回 R8		前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
10代	20	1.3%	33	1.5%	26	1.2%
20代	70	4.6%	129	5.7%	103	4.8%
30代	130	8.5%	210	9.2%	183	8.4%
40代	180	11.8%	307	13.5%	284	13.1%
50代	226	14.8%	315	13.9%	323	14.9%
60代	279	18.3%	479	21.1%	501	23.1%
70代	371	24.3%	481	21.2%	418	19.3%
80代以上	217	14.2%	264	11.6%	279	12.9%
無記入	31	2.0%	53	2.3%	51	2.4%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

(3) 職業

	今回 R8		前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
農林水産業	32	2.1%	51	2.2%	62	2.9%
自営業（商工、サービス業）	43	2.8%	80	3.5%	72	3.3%
その他の自営業	27	1.8%	44	1.9%	69	3.2%
会社員、団体職員	391	25.7%	600	26.4%	533	24.6%
会社役員、団体役員	47	3.1%	56	2.5%	47	2.2%
公務員	85	5.6%	131	5.8%	132	6.1%
学生	27	1.8%	41	1.8%	30	1.4%
家事従事	140	9.2%	211	9.3%	191	8.8%
アルバイト、パートタイマー	169	11.1%	255	11.2%	243	11.2%
無職	487	32.0%	658	29.0%	652	30.1%
その他	42	2.8%	73	3.2%	62	2.9%
無記入	34	2.2%	71	3.1%	75	3.5%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

(4) 家族構成

今回 R8			前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
一人暮らし	197	12.9%	207	9.1%	205	9.5%
夫婦のみ	413	27.1%	598	26.3%	563	26.0%
2世代家族（子どもと）	457	30.0%	676	29.8%	646	29.8%
2世代家族（親と）	210	13.8%	338	14.9%	343	15.8%
3世代以上の同居家族	173	11.4%	344	15.1%	319	14.7%
その他	48	3.1%	64	2.8%	39	1.8%
無記入	26	1.7%	44	1.9%	53	2.4%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

(5) 現在の住まいの形態

今回 R8			前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
戸建て住宅（自己所有）	1,282	84.1%	1,925	84.8%	1,836	84.7%
戸建て住宅（賃貸）	23	1.5%	44	1.9%	41	1.9%
マンション（自己所有）	24	1.6%	17	0.7%	22	1.0%
マンション（賃貸）	23	1.5%	30	1.3%	26	1.2%
その他（アパート、社宅など）	136	8.9%	189	8.3%	162	7.5%
無記入	36	2.4%	66	2.9%	81	4.8%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

(6) あなたがお住まいの地域自治区

	今回 R8		前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
高田区	295	19.4%	423	18.6%	378	17.4%
新道区	52	3.4%	74	3.3%	79	3.6%
金谷区	73	4.8%	107	4.7%	125	5.8%
春日区	153	10.0%	222	9.8%	186	8.6%
諏訪区	8	0.5%	9	0.4%	12	0.6%
津有区	34	2.2%	64	2.8%	54	2.5%
三郷区	12	0.8%	16	0.7%	16	0.7%
和田区	42	2.8%	66	2.9%	46	2.1%
高士区	13	0.9%	19	0.8%	24	1.1%
直江津区	173	11.4%	213	9.4%	208	9.6%
有田区	89	5.8%	125	5.5%	124	5.7%
八千浦区	25	1.6%	39	1.7%	37	1.7%
保倉区	17	1.1%	26	1.1%	20	0.9%
北諏訪区	12	0.8%	22	1.0%	17	0.8%
谷浜・桑取区	13	0.9%	20	0.9%	14	0.6%
安塚区	15	1.0%	25	1.1%	37	1.7%
浦川原区	28	1.8%	39	1.7%	47	2.2%
大島区	9	0.6%	25	1.1%	23	1.1%
牧区	13	0.9%	24	1.1%	24	1.1%
柿崎区	87	5.7%	129	5.7%	120	5.5%
大潟区	73	4.8%	118	5.2%	103	4.8%
頸城区	72	4.7%	91	4.0%	102	4.7%
吉川区	33	2.2%	54	2.4%	45	2.1%
中郷区	28	1.8%	53	2.3%	45	2.1%
板倉区	48	3.1%	86	3.8%	85	3.9%
清里区	22	1.4%	32	1.4%	47	2.2%
三和区	44	2.9%	70	3.1%	60	2.8%
名立区	19	1.2%	35	1.5%	34	1.6%
無記入	22	1.4%	45	2.0%	56	2.6%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

(7) 上越市とのかかわり

	今回 R8		前回 R4		前々回 H30	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
上越市内の出身で、市外に転出することなく、ずっと上越市内で暮らしている	561	36.8%	891	39.2%	843	38.9%
上越市内の出身で、進学や就職などで市外に転出したことはあるが、戻って暮らしている	515	33.8%	762	33.6%	709	32.7%
上越市外の出身で、上越市内で暮らしている	330	21.7%	464	20.4%	469	21.6%
その他	28	1.8%	37	1.6%	42	1.9%
無記入	90	5.9%	117	5.2%	105	4.8%
母数	1,524	100.0%	2,271	100.0%	2,168	100.0%

3-2 クロス集計表（性別・年齢・家族構成・地域区分）